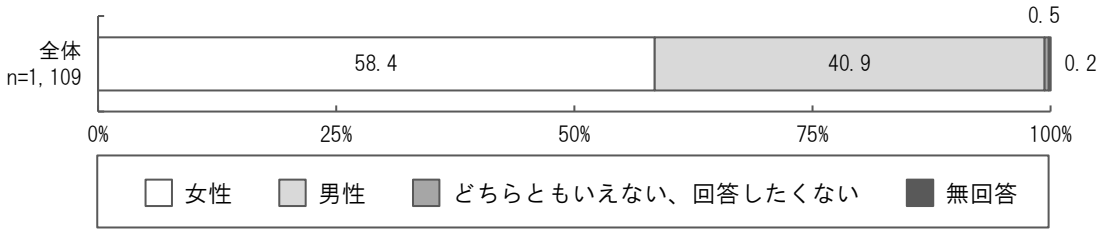
第２章

市民意識調査結果(男女共同参画)

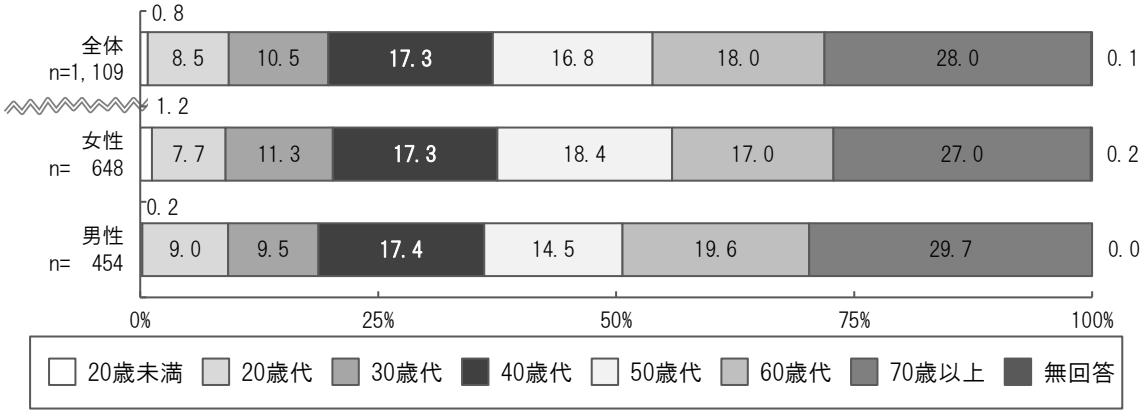
第２章　市民意識調査結果（男女共同参画）

1　回答者の属性

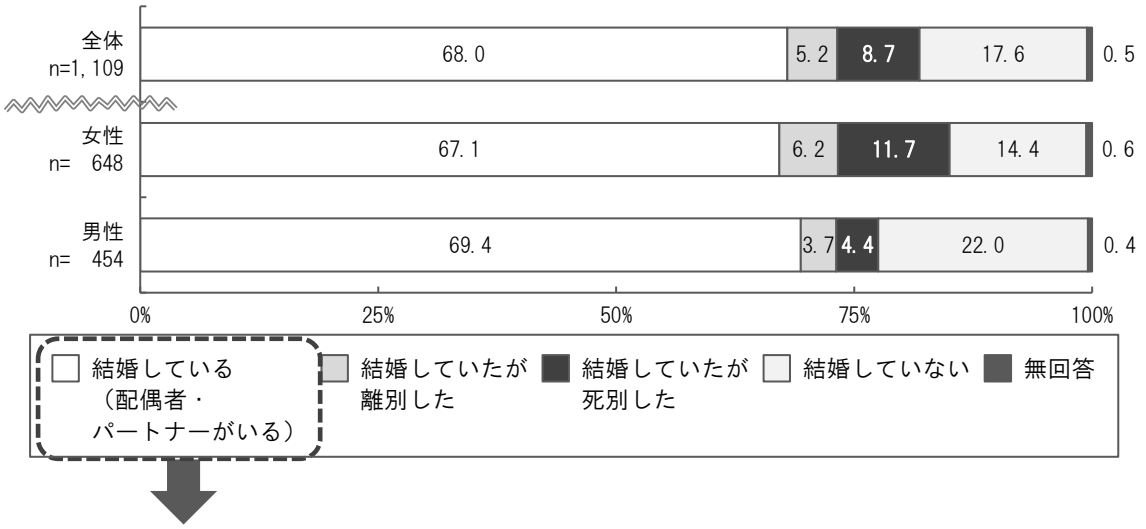
問１　あなたの性別をお答えください。（○は１つ）



問２　あなたの年齢をお答えください。（○は１つ）
※令和３年12月１日現在の満年齢でお答えください。

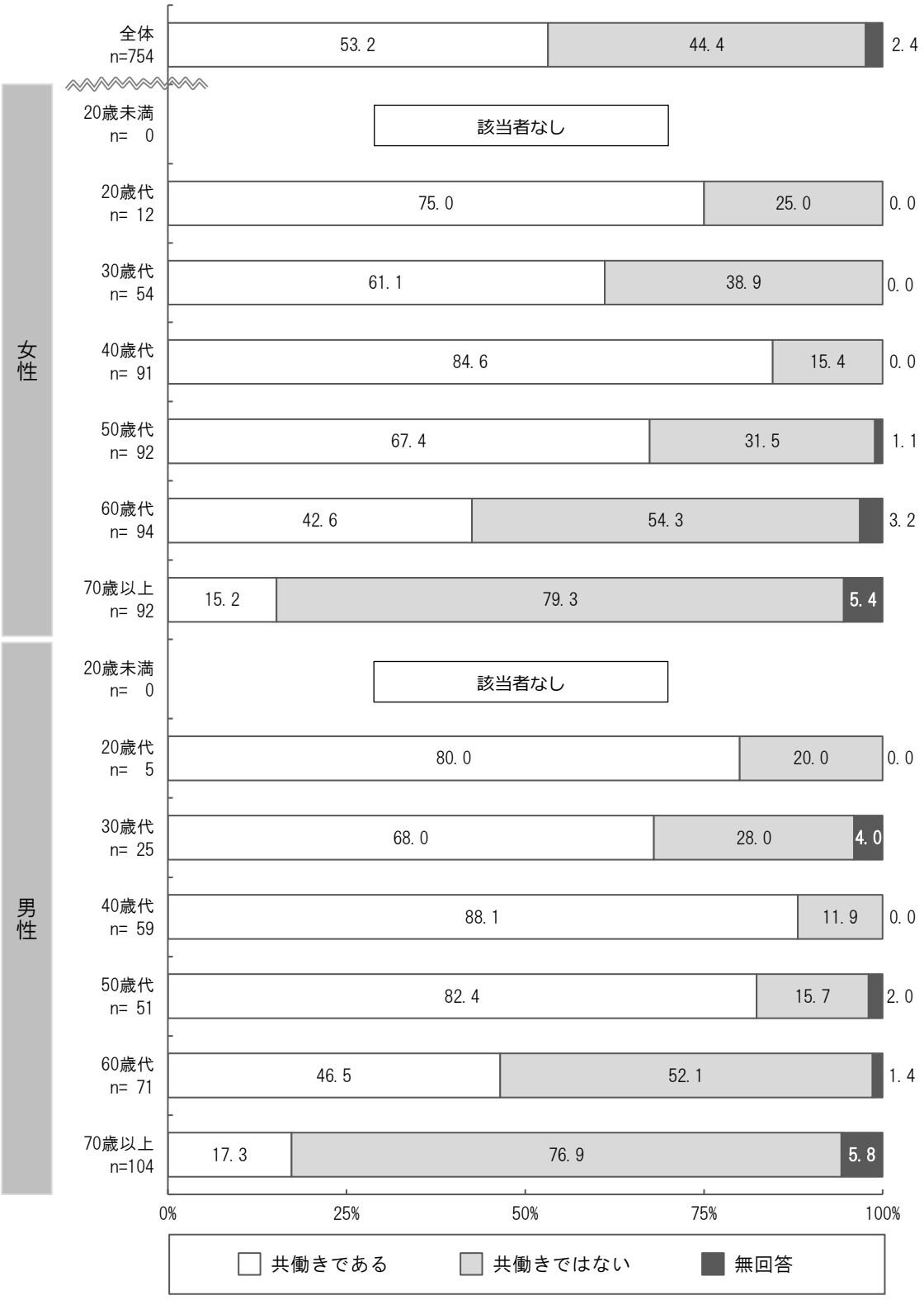


問３　あなたは結婚されていますか。（○は１つ）

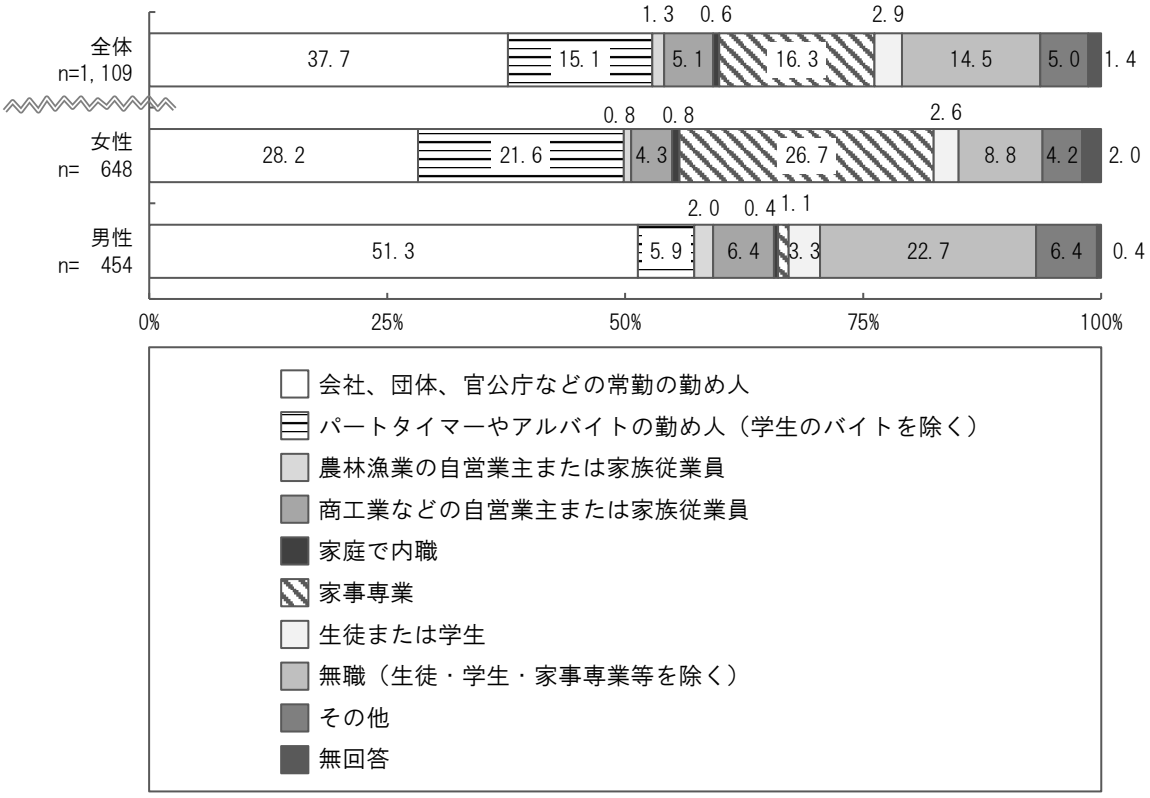


問３で「１．結婚している（配偶者・パートナーがいる）」と回答した方にお聞きします。

問３-１　あなたのご家庭は共働きですか。（○は１つ）



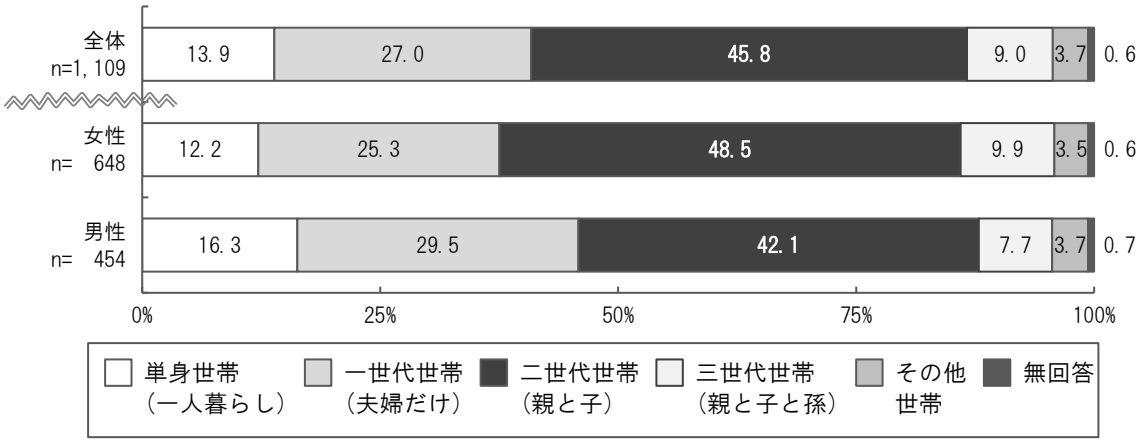
問４　あなたの主たる職業は何ですか。（○は１つ）



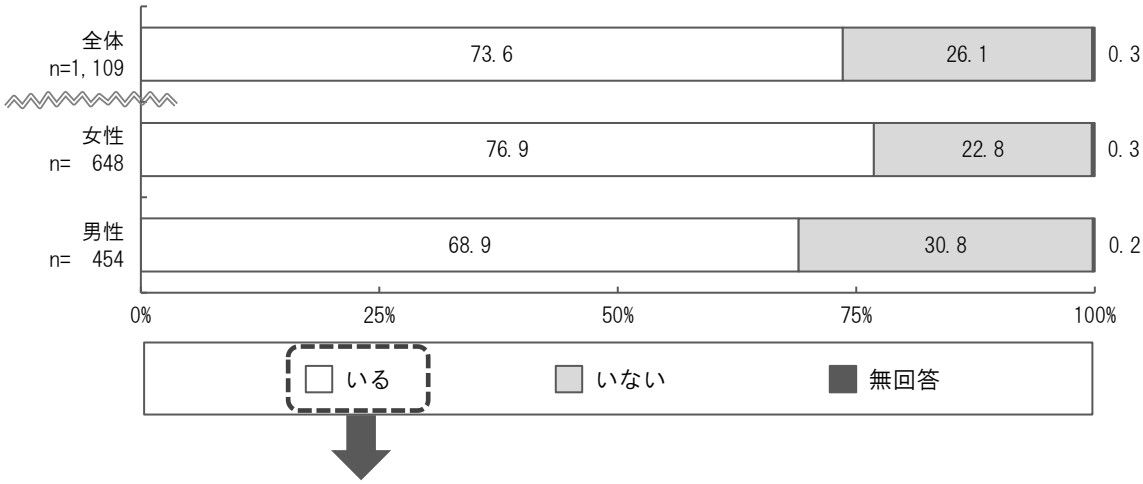
単位：％

	女性 n=648	男性 n=454
勤め人（計）	49.8	57.2
会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人	28.2	51.3
パートタイマーやアルバイトの勤め人（学生のバイトを除く）	21.6	5.9
自営業・家内従業及び内職（計）	5.9	8.8
農林漁業の自営業主または家族従業員	0.8	2.0
商工業などの自営業主または家族従業員	4.3	6.4
家庭で内職	0.8	0.4
無職（計）	38.1	27.1
家事専業	26.7	1.1
生徒または学生	2.6	3.3
無職（生徒・学生・家事専業等を除く）	8.8	22.7

問５　あなたの家族構成は次のどれですか。（○は１つ）

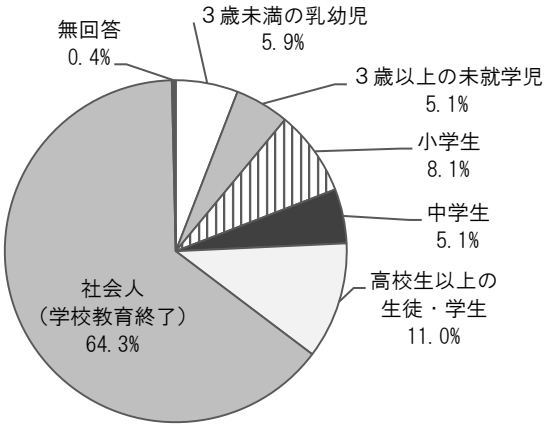


問６　あなたには、お子さんがいますか。（○は１つ）



問６で「１．いる」と回答した方にお聞きします。

問６-１　一番下のお子さんの成長段階はどの段階ですか。（○は１つ）



全体 n=816

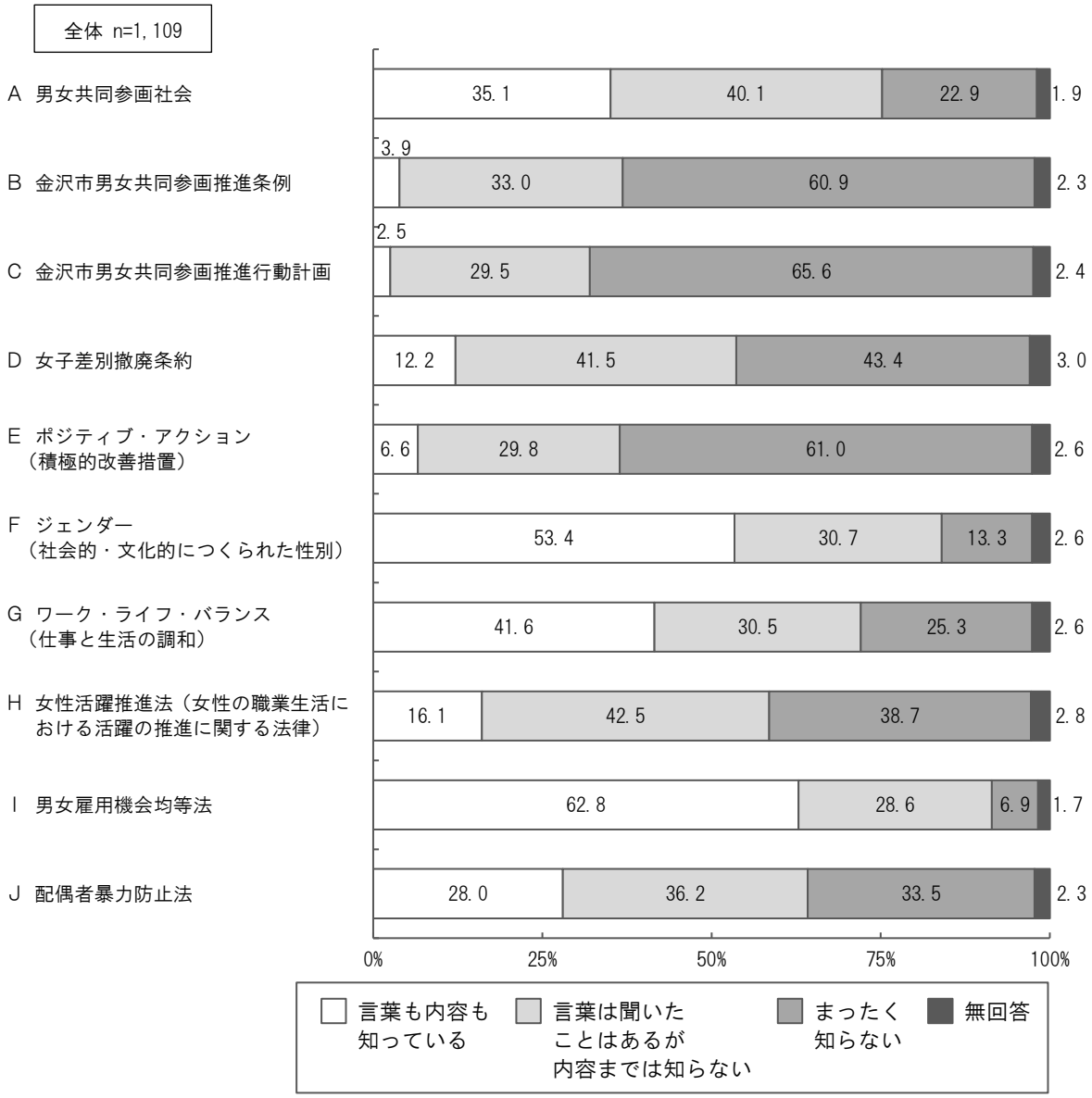
2　男女共同参画社会に関する意識について

（１）男女共同参画に関する用語の認知度

問７　あなたは、次にあげる言葉についてどの程度ご存知ですか。
（Ａ～Ｊのそれぞれに○は１つ）

男女共同参画社会に関する用語の認知度をみると、「言葉も内容も知っている」との回答は、『Ｉ　男女雇用機会均等法』が62.8%で最も高く、次いで『Ｆ　ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）』（53.4%）、『Ｇ　ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）』（41.6%）となっている。

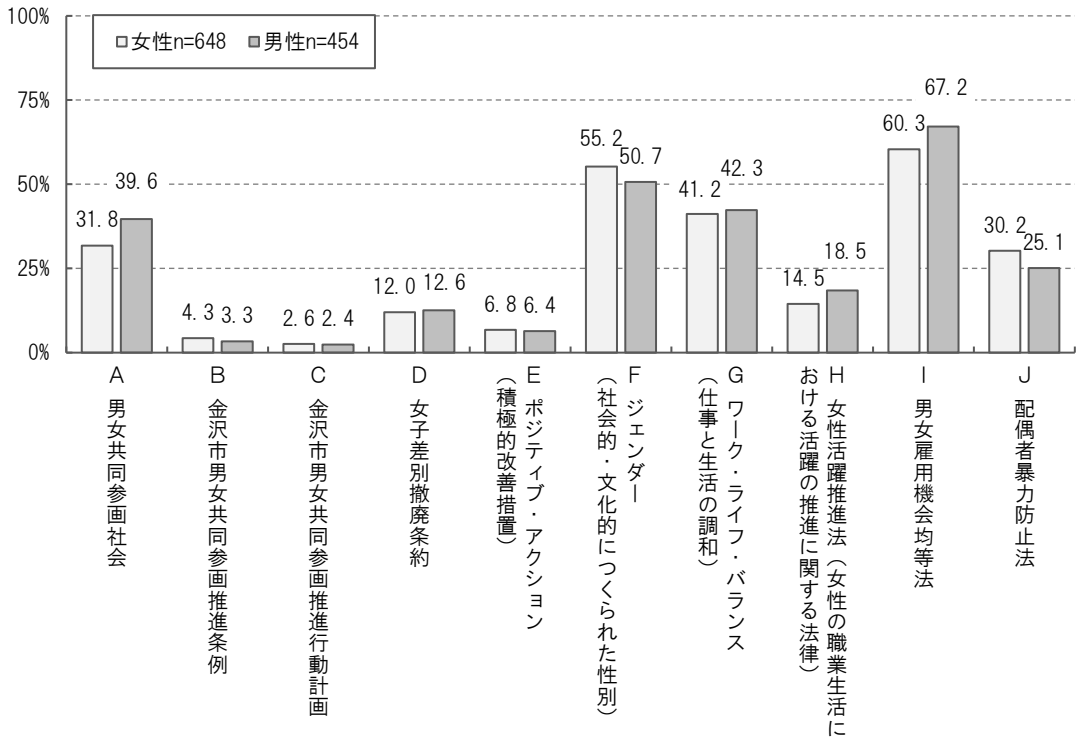
一方、『Ｃ　金沢市男女共同参画推進行動計画』（2.5%）、『Ｂ　金沢市男女共同参画推進条例』（3.9%）の認知度は低い状況となっている。



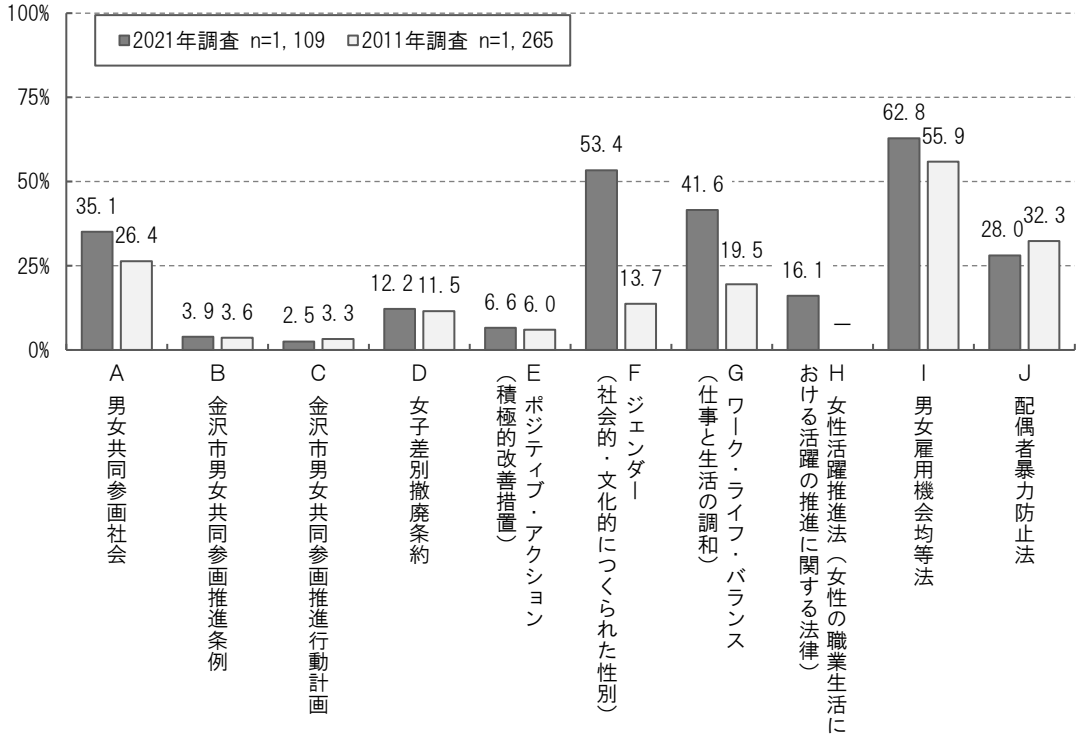
各用語の「言葉も内容も知っている」割合を性別にみると、『Ｆ ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）』や『Ｊ 配偶者暴力防止法』は男性に比べ女性が高くなっている。

前回調査と比較すると、『Ｆ ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）』は39.7ポイント、『Ｇ ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）』は22.1ポイント高くなっている。

«「言葉も内容も知っている」割合（性別）»



«「言葉も内容も知っている」割合（経年比較）»



（２）男女の地位の平等感

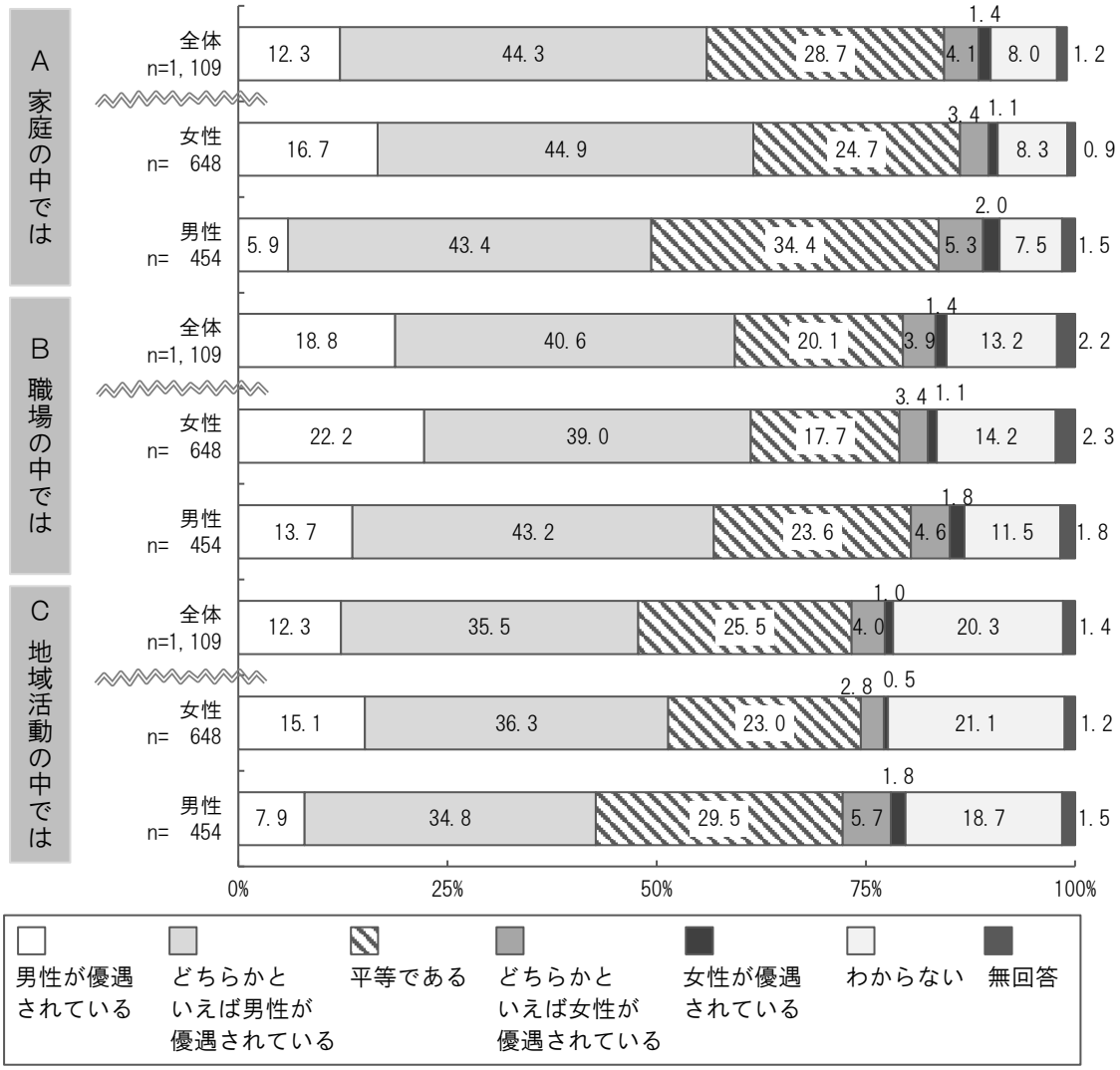
問８　現在の日本の社会において、次にあげる分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。Ａ～Ｇの各分野において、あなたの考えに近い番号を選んでください。（Ａ～Ｇのそれぞれに○は１つ）

男女の地位が「平等である」と感じる分野は、『Ｄ　学校教育の場』で割合が高く、『Ｅ　政治の場』では低くなっている。

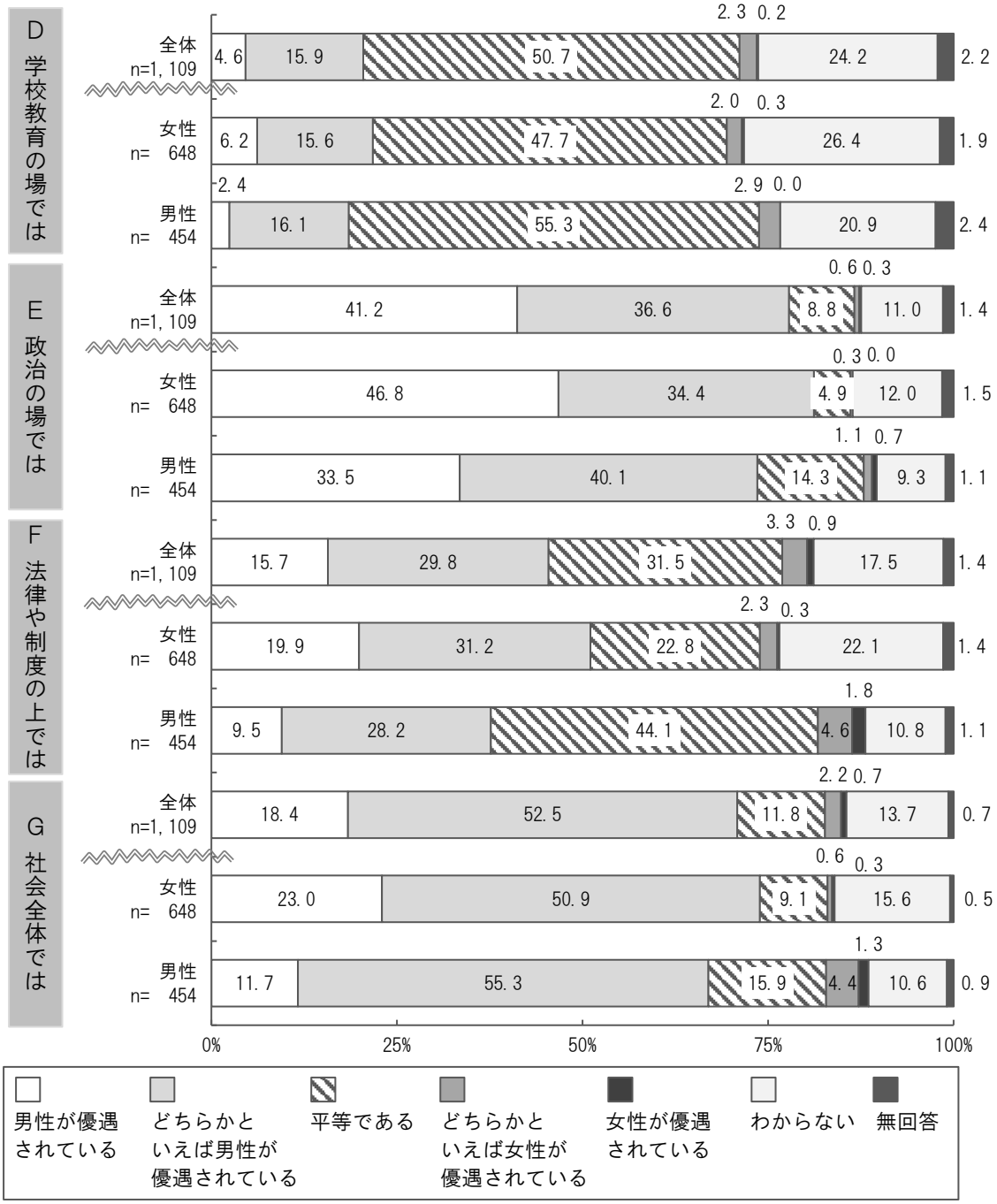
男女間の平等意識の差をみると、『Ｆ　法律や制度の上』では男性の44.1%が「平等である」と回答しているが、女性は22.8%と大きな乖離がある。

また、『Ｇ　社会全体』においては、男女ともに７割前後が“男性が優遇されている”（「男性が優遇されている」＋「どちらかといえば男性が優遇されている」）と回答している。

«全体・性別 ①»



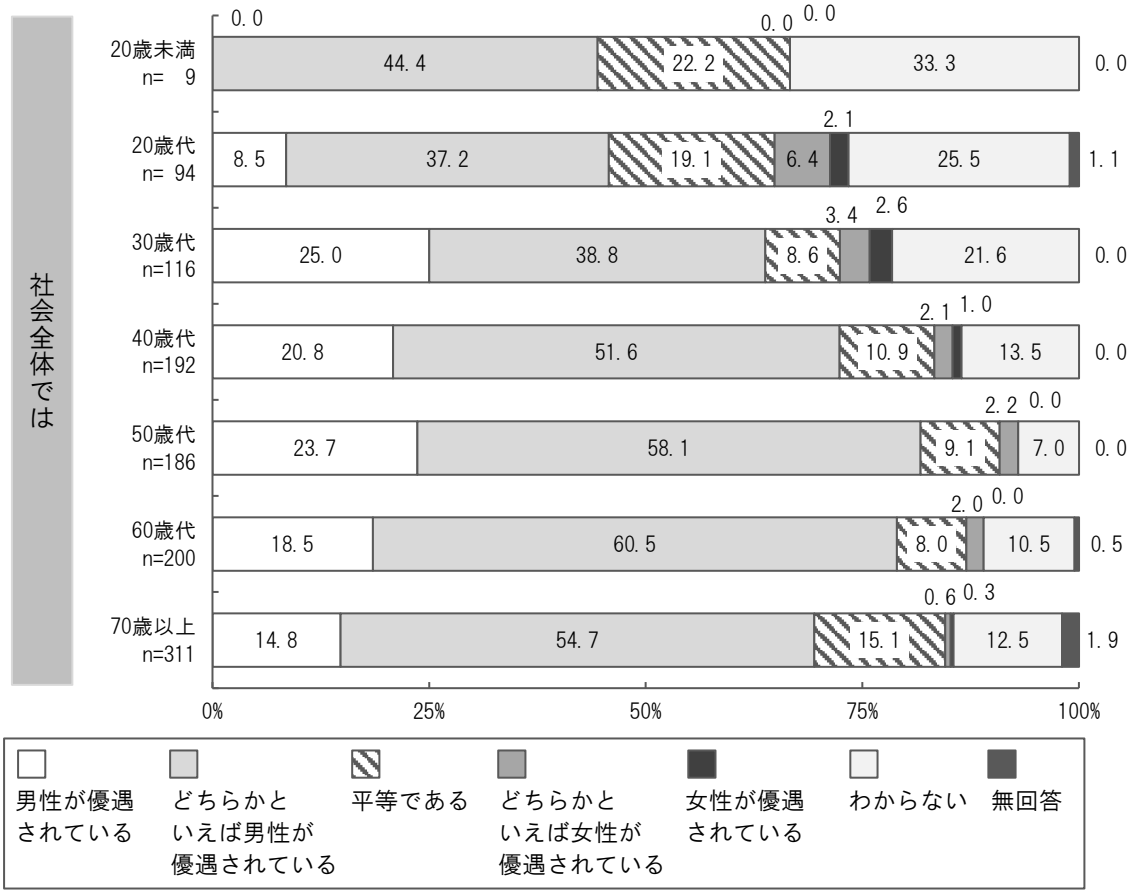
«全体・性別 ②»


D 学校教育の場では
全体 n=1,109
4.6 15.9 50.7 2.3 0.2 24.2 2.2
女性 n= 648
6.2 15.6 47.7 2.0 0.3 26.4 1.9
男性 n= 454
2.4 16.1 55.3 2.9 0.0 20.9 2.4
E 政治の場では
全体 n=1,109
41.2 36.6 8.8 0.6 0.3 11.0 1.4
女性 n= 648
46.8 34.4 4.9 0.3 0.0 12.0 1.5
男性 n= 454
33.5 40.1 14.3 1.1 0.7 9.3 1.1
F 法律や制度の上では
全体 n=1,109
15.7 29.8 31.5 3.3 0.9 17.5 1.4
女性 n= 648
19.9 31.2 22.8 2.3 0.3 22.1 1.4
男性 n= 454
9.5 28.2 44.1 4.6 1.8 10.8 1.1
G 社会全体では
全体 n=1,109
18.4 52.5 11.8 2.2 0.7 13.7 0.7
女性 n= 648
23.0 50.9 9.1 0.6 0.3 15.6 0.5
男性 n= 454
11.7 55.3 15.9 4.4 1.3 10.6 0.9
0% 25% 50% 75% 100%
男性が優遇されている
どちらかといえば男性が優遇されている
平等である
どちらかといえば女性が優遇されている
女性が優遇されている
わからない
無回答

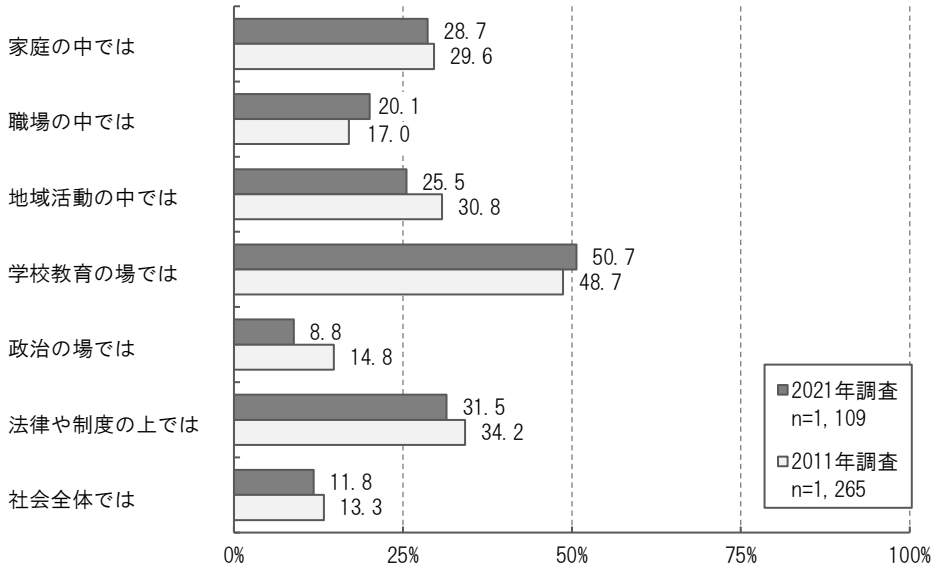
『社会全体』における平等感を年代別にみると、20歳代までは約２割が「平等である」と感じているものの、30歳代から60歳代では１割前後となっている。

前回調査と比較すると、『Ｂ　職場の中』『Ｄ　学校教育の場』では男女が「平等である」と感じている割合が増加しているものの、その他分野では減少している。

«社会全体では（年代別）»



«男女の地位が「平等である」と感じている割合（経年比較）»

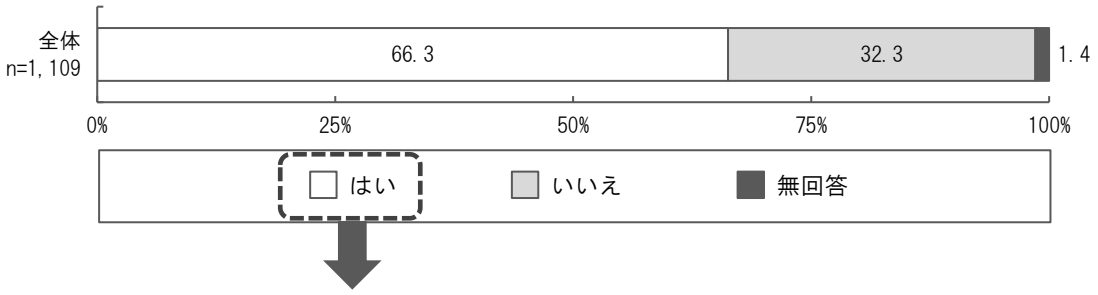


3　家庭生活に関する意識について

（１）家庭における役割意識（現状・理想）

問９　配偶者・パートナーと同居されていますか。（○は１つ）

配偶者・パートナーと同居している割合は66.3%となっている。



問９で「１．はい」と回答した方にお聞きします。

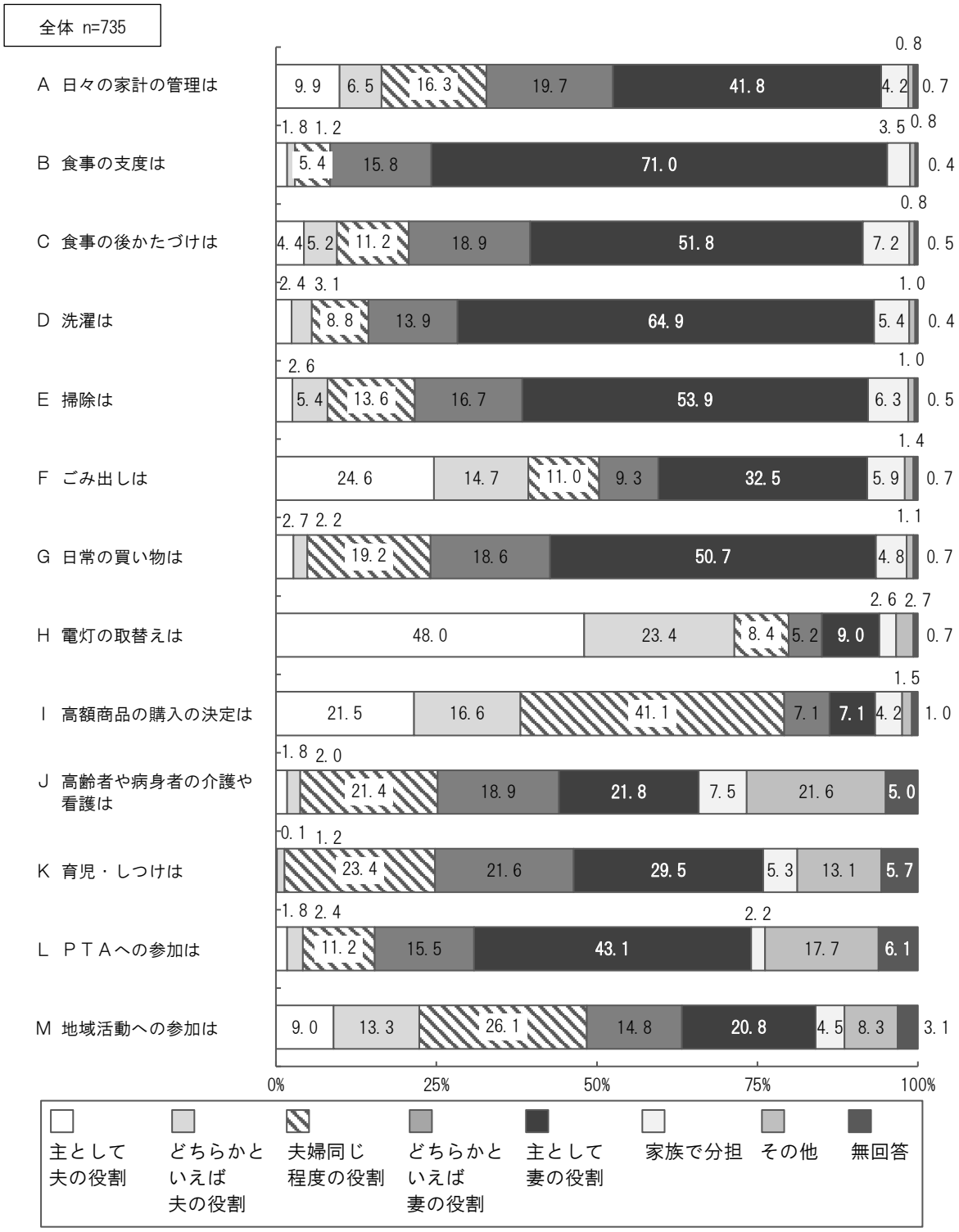
問９-１　（１）あなたのご家庭では、次のようなことを実際に主としてどちらがされていますか。
（２）また、理想はどうされたいですか。
（（１）（２）とも、Ａ～Ｍのそれぞれに○は１つ）

配偶者・パートナーと同居している方の家庭生活における役割分担について、「夫婦同じ程度の役割」と回答した割合が高いのは、『Ｉ　高額商品の購入の決定』（41.1%）、『Ｍ　地域活動への参加』（26.1%）、『Ｋ　育児・しつけ』（23.4%）となっている。

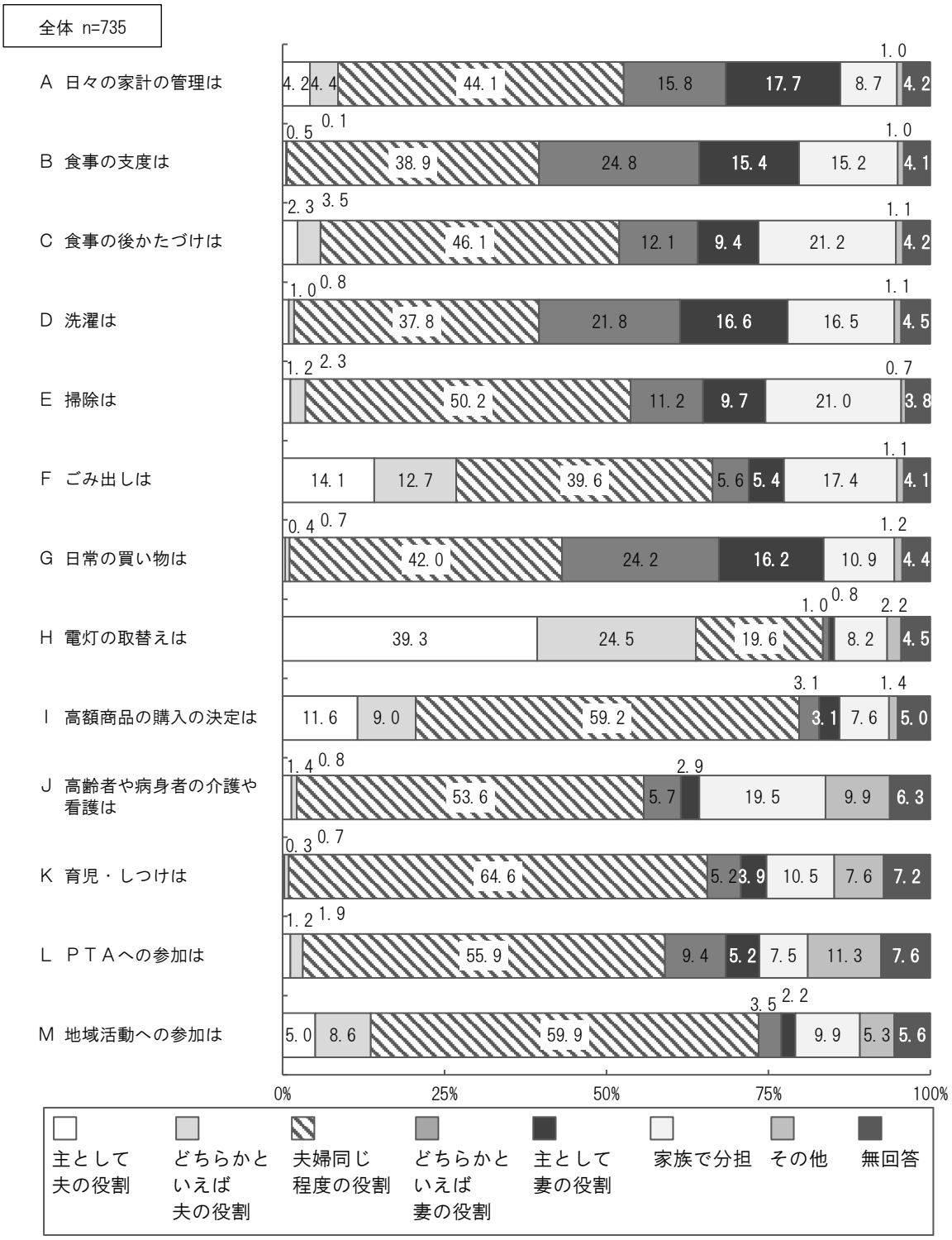
“妻の役割”（「主として妻の役割」＋「どちらかといえば妻の役割」）との回答が５割を超えるのは、『Ａ　日々の家計の管理』（61.5%）、『Ｂ　食事の支度』（86.8%）、『Ｃ　食事の後かたづけ』（70.7%）、『Ｄ　洗濯』（78.8%）、『Ｅ　掃除』（70.6%）、『Ｇ　日常の買い物』（69.3%）、『Ｋ　育児・しつけ』（51.1%）、『Ｌ　ＰＴＡへの参加』（58.6%）の８項目と多い一方、“夫の役割”（「主として夫の役割」＋「どちらかといえば夫の役割」）は『Ｈ　電灯の取替え』（71.4%）のみとなっている。

家庭生活における役割分担は、ほとんどの項目で「夫婦同じ程度の役割」であることを理想としている方の割合が高くなっている。

≪家庭での役割分担の現状≫

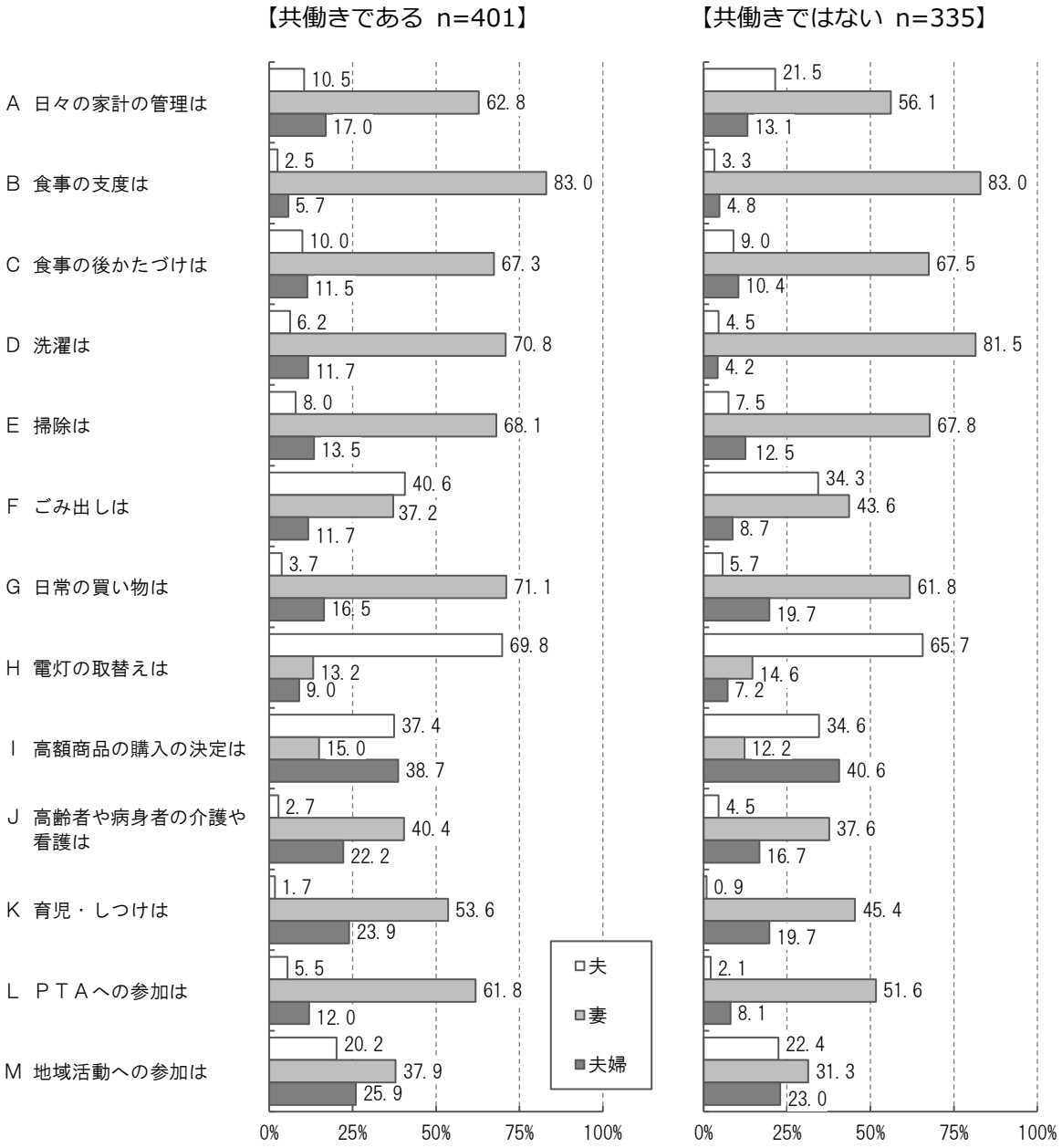


≪家庭での役割分担の理想≫



共働きの状況別にみると、『Ｄ 洗濯』『Ｆ ごみ出し』は共働きではない家庭で“妻の役割”とする回答割合が高くなっている。また、共働きではない家庭に比べ、共働き家庭では“夫の役割”、“夫婦の役割”と回答した割合がやや高い傾向にある。

≪家庭での役割分担の現状（共働きの状況別）≫



※問９-１の「主として夫の役割」「どちらかといえば夫の役割」の合計を“夫”、「主として妻の役割」「どちらかといえば妻の役割」の合計を“妻”、「夫婦同じ程度の役割」を“夫婦”としている。

（２）性別役割分担意識について

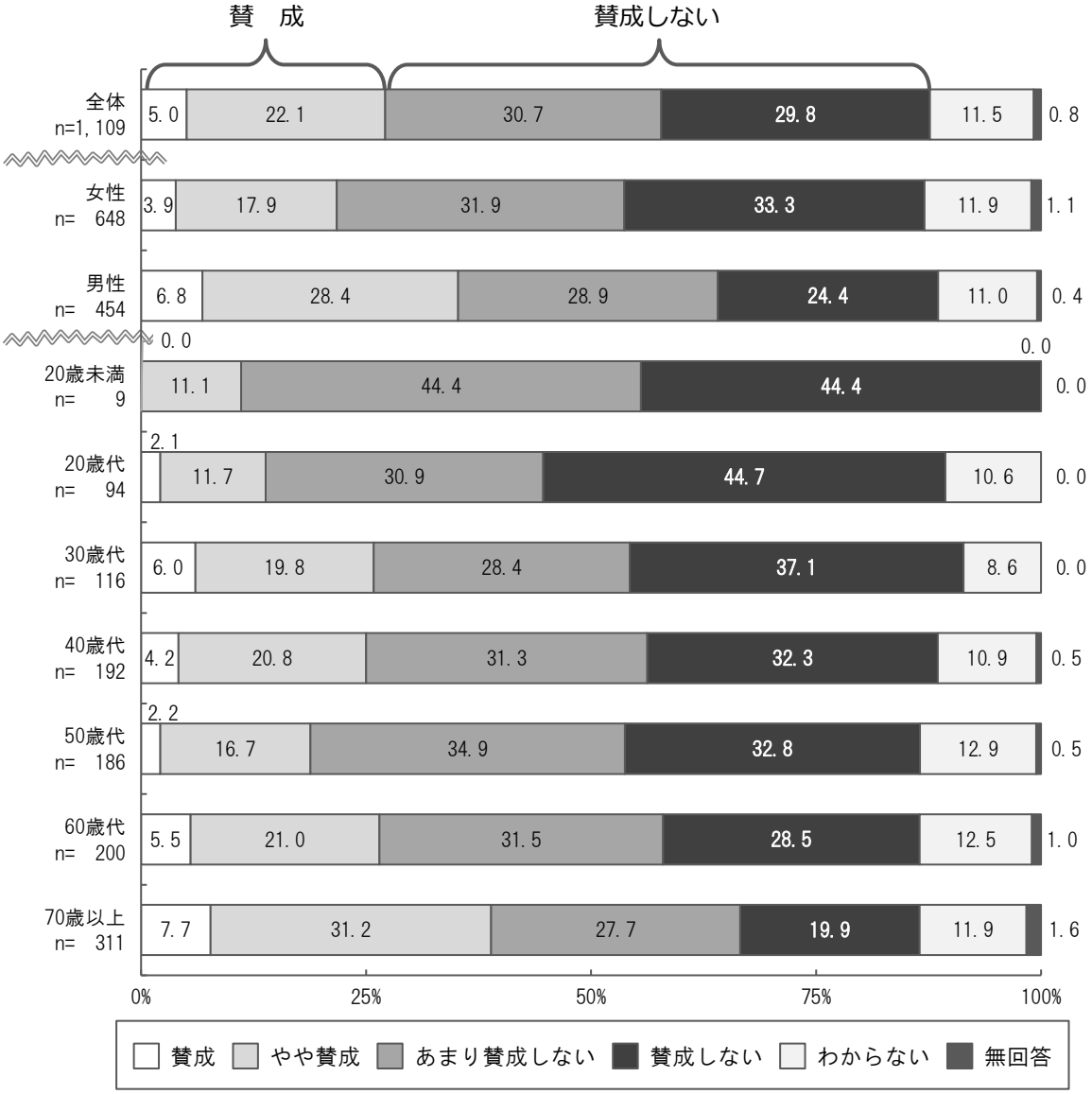
問10　あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思いますか。（○は１つ）

「男は仕事、女は家庭」という考え方について、“賛成派”（「賛成」＋「やや賛成」）が27.1%、“賛成しない派”（「あまり賛成しない」＋「賛成しない」）が60.5%となり、「賛成しない」が大きく上回っている。

性別にみると、“賛成しない派”の割合は男性（53.3%）に比べ、女性（65.2%）が高くなっている。

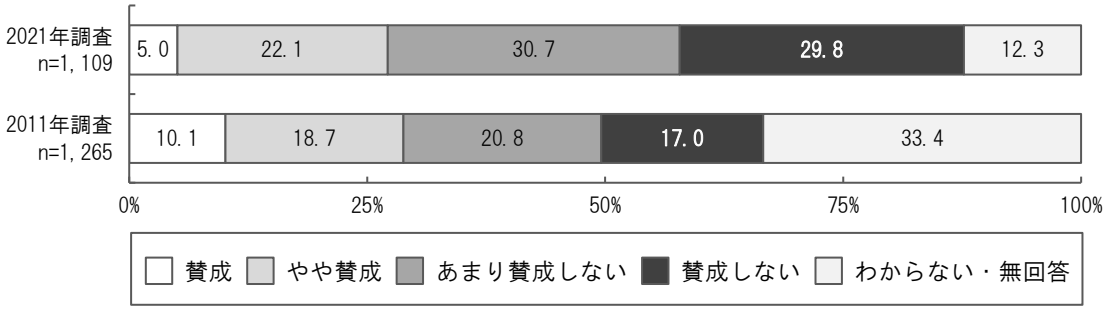
年齢別にみると、“賛成しない派”の割合は、20歳未満では約９割と高いものの、年齢が上がるにつれ、減少傾向にある。

«全体・性別・年代別»



前回調査と比較すると、“賛成派”は1.7ポイント低くなった一方、“賛成しない派”は22.7ポイント高くなっている。

«経年比較»



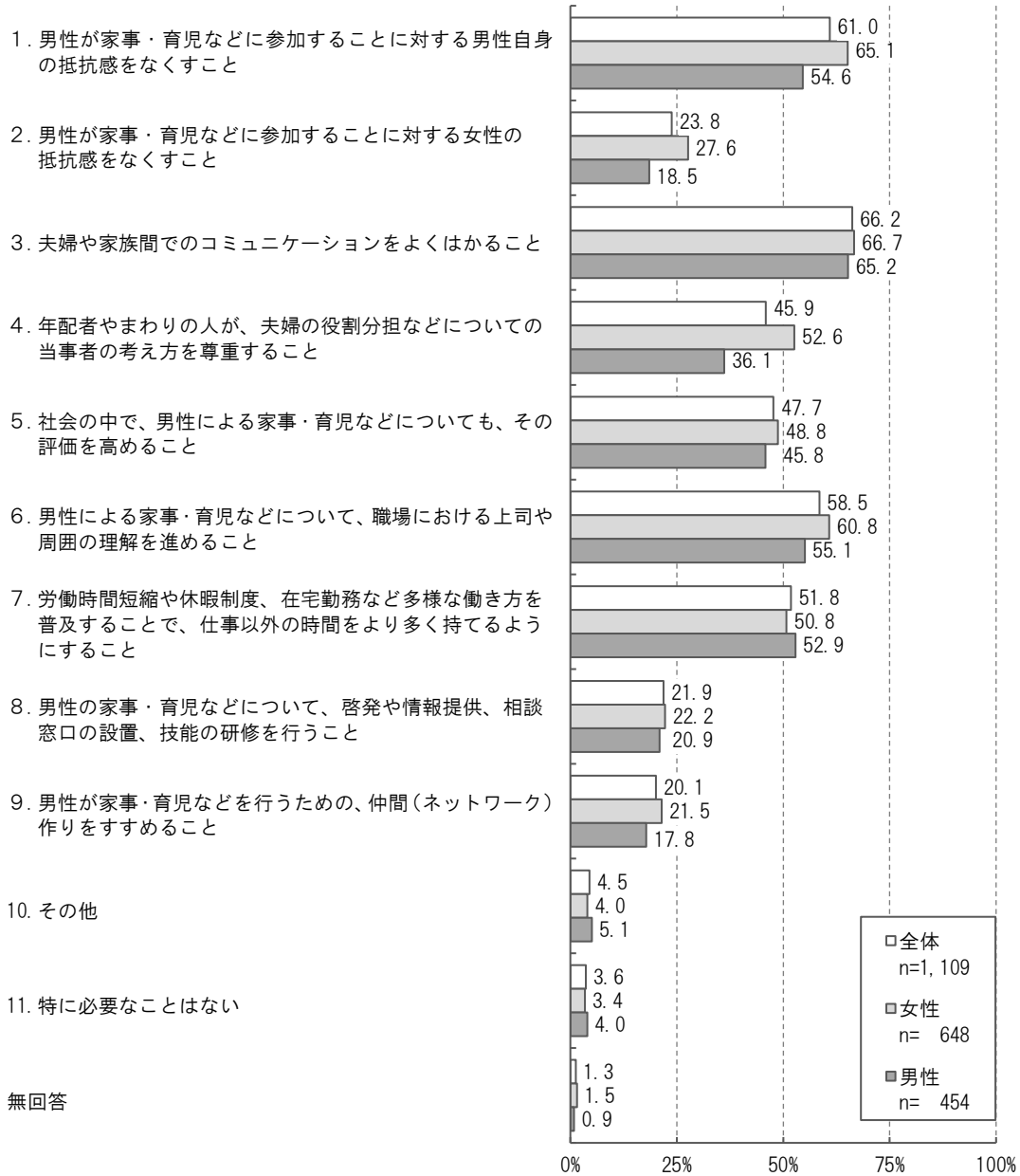
（３）男性が家事・育児などに積極的に参加するために必要なこと

問11　今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

今後、男性が女性とともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことは、「３.夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」（66.2%）、「１.男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」（61.0%）、「６.男性による家事・育児などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」（58.5%）が上位となっている。

また、「１.男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、「４.年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」が必要と考える割合は、男性に比べ女性が10ポイント以上高くなっている。

«全体・性別»



4　ワーク・ライフ・バランスについて

（１）「仕事」「家庭生活」「個人の生活」の優先度（現状・理想）

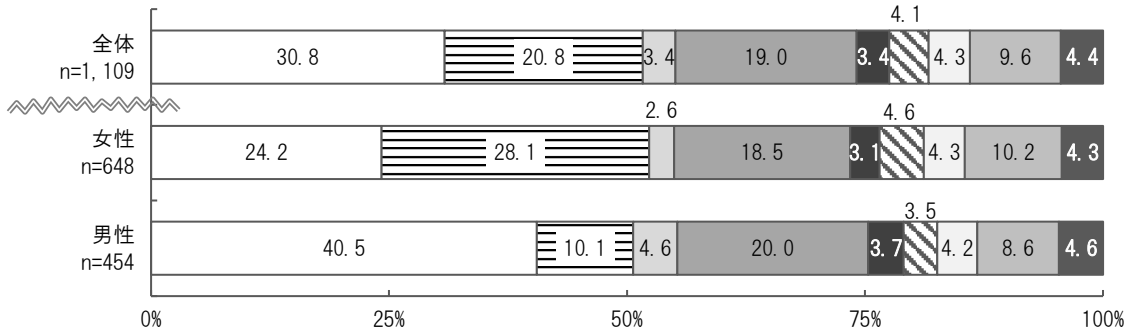
問12　あなたの生活の中での、「仕事」「家庭生活」「個人の生活（地域活動、趣味・学習等）の優先度ついて（１）あなたの現状に最も近い番号、（２）あなたの理想に最も近い番号１つに○をつけてください。（（１）（２）とも、それぞれ○は１つ）

生活の中での、「仕事」「家庭生活」「個人の生活（地域活動、趣味・学習等）」の優先度をみると、現状では、「『仕事』を優先」（30.8%）で最も高く、次いで「『家庭生活』を優先」（20.8%）、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（19.0%）となっている。

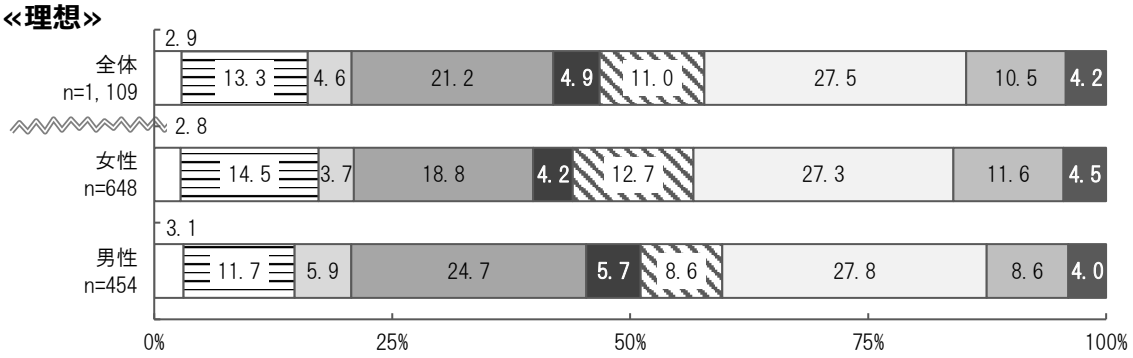
性別では、女性は「『家庭生活』を優先」（28.1%）、男性は「『仕事』を優先」（40.5%）が最も高くなっている。

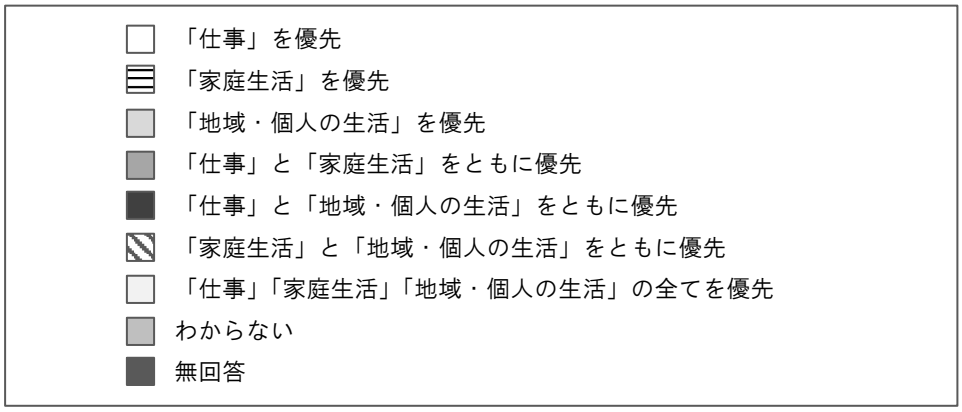
一方、理想は、男女ともに「『仕事』『家庭生活』『地域・個人の生活』の全てを優先」（27.3%・27.8%）が最も高くなっている。

«現状»



«理想»





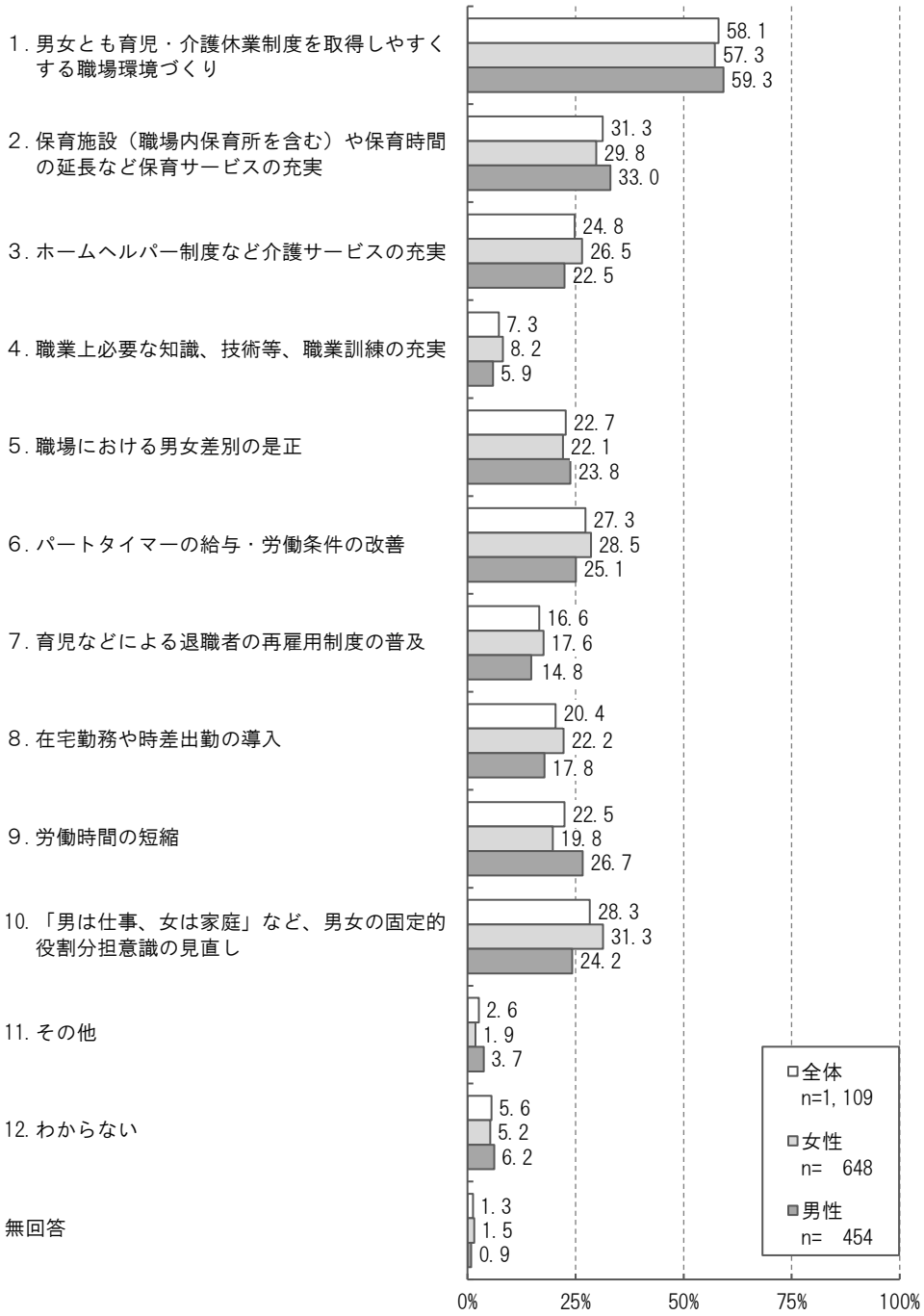
（２）ワーク・ライフ・バランス実現に向けて必要なこと

問13　男性も女性もともに仕事と家庭生活の両立をしていくためには、今後どのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）

ワーク・ライフ・バランス実現に向けて必要なことについては、「１.男女とも育児・介護休業制度を取得しやすくする職場環境づくり」が58.1%で最も高く、次いで「２.保育施設（職場内保育所を含む）や保育時間の延長など保育サービスの充実」（31.3%）、「10.『男は仕事、女は家庭』など、男女の固定的役割分担意識の見直し」（28.3%）となっている。

また、「10.『男は仕事、女は家庭』など、男女の固定的役割分担意識の見直し」は、男性に比べ女性が7.1ポイント高くなっている。

«全体・性別»



5　職場に関する意識について

（１）職場における男女平等の状況

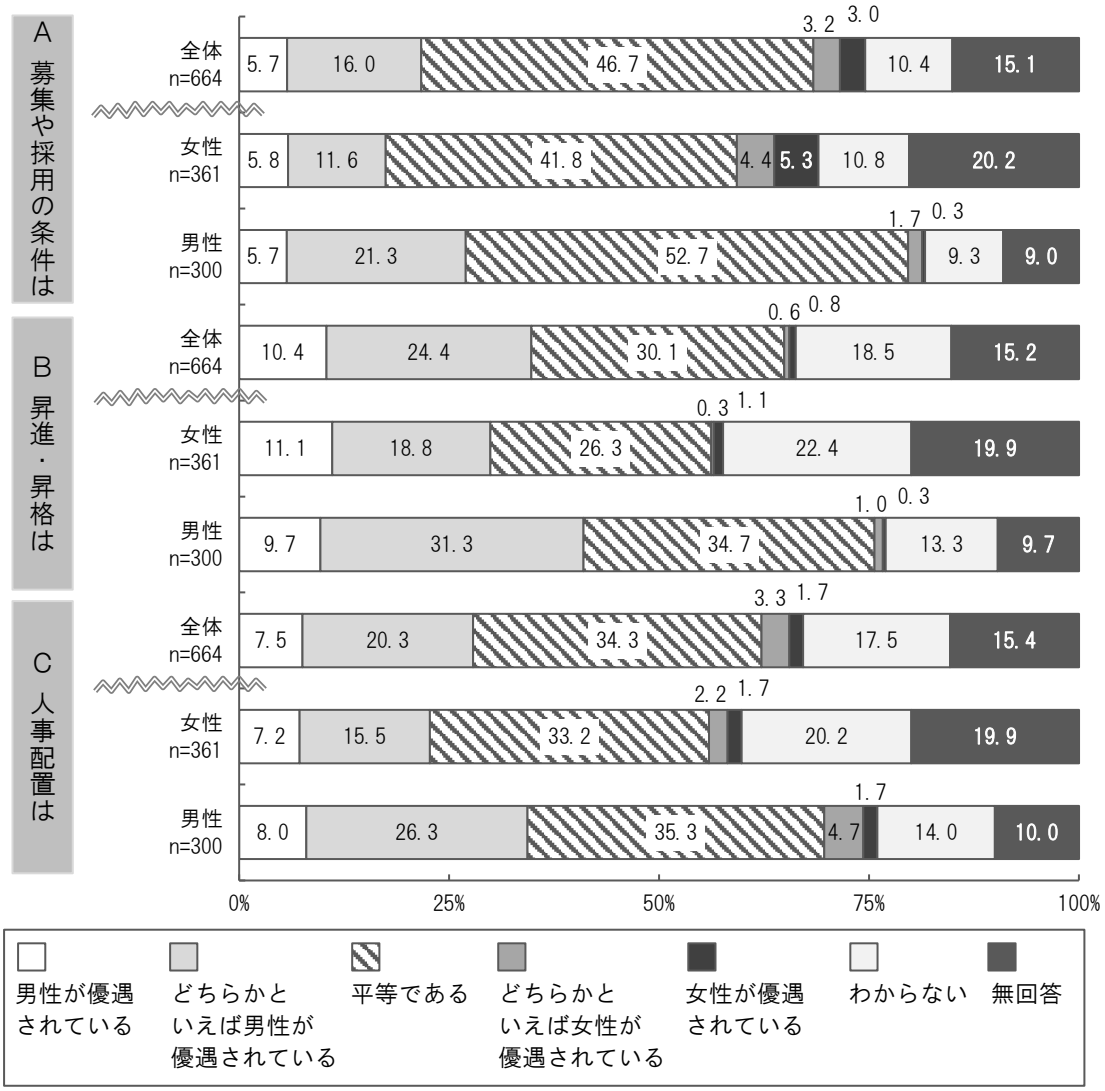
◆問４で「１．会社、団体、官公庁などの常勤の務め人」～「５．家庭で内職」と回答した方にお聞きします。

問14　あなたの職場では、次にあげるＡ～Ｇそれぞれの面で男女平等になっていますか。
（Ａ～Ｇのそれぞれに○は１つ）

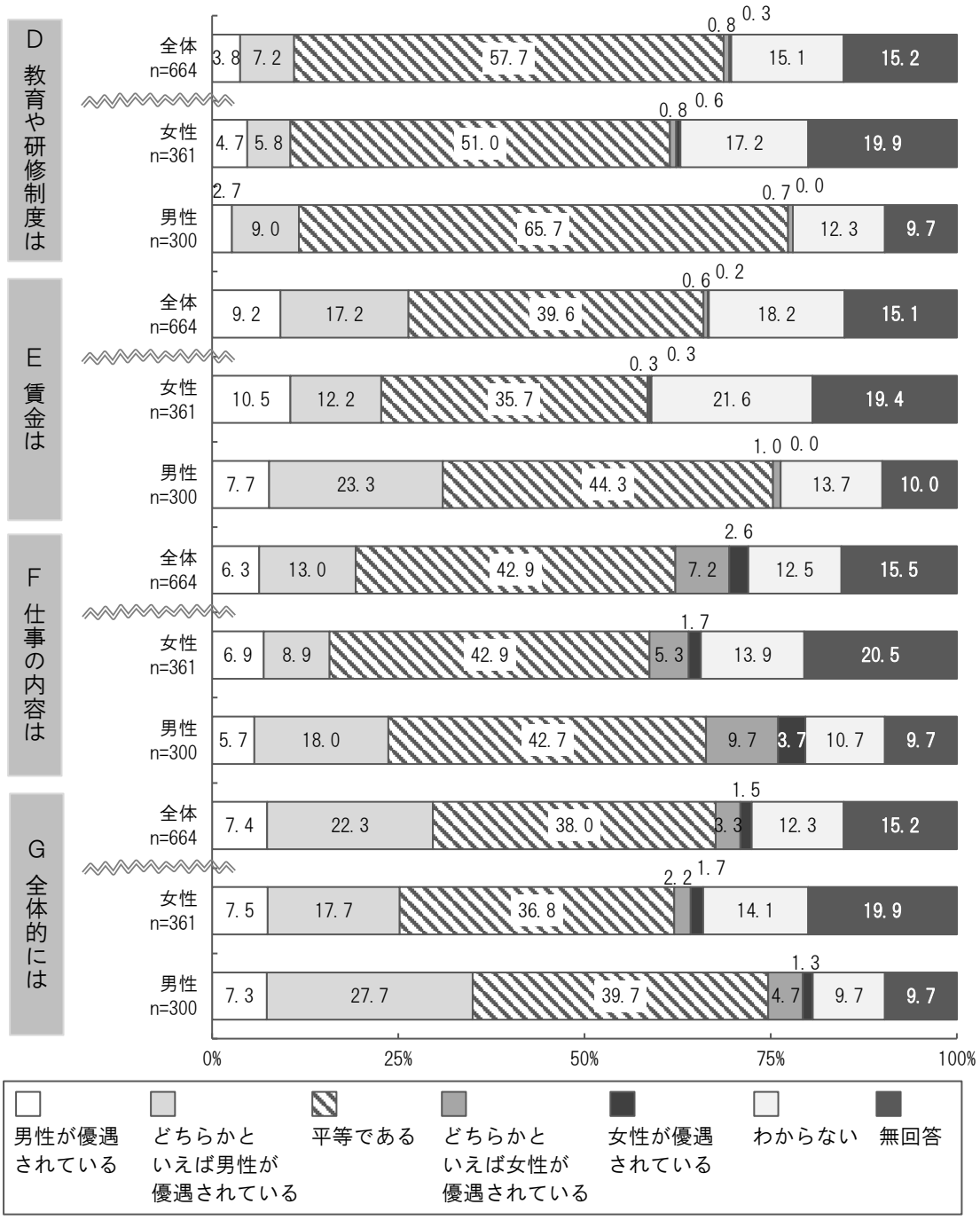
現在、収入のある職業についている方の職場における男女平等の状況については、いずれの項目も「平等である」との回答が最も多くなっているものの、５割を超えるのは『Ｄ　教育や研修制度』のみとなっている。

性別にみると、『Ａ　募集や採用の条件』『Ｄ　教育や研修制度』は「平等である」と回答した男性の割合が女性よりいずれも10ポイント以上高く、男女間の意識に大きな乖離がみられる。

«全体・性別 ①»



«全体・性別 ②»


D 教育や研修制度は
全体 n=664
3.8 7.2 57.7 0.8 0.3 15.1 15.2
女性 n=361
4.7 5.8 51.0 0.8 0.6 17.2 19.9
男性 n=300
2.7 9.0 65.7 0.7 0.0 12.3 9.7
E 賃金は
全体 n=664
9.2 17.2 39.6 0.6 0.2 18.2 15.1
女性 n=361
10.5 12.2 35.7 0.3 0.3 21.6 19.4
男性 n=300
7.7 23.3 44.3 1.0 0.0 13.7 10.0
F 仕事の内容は
全体 n=664
6.3 13.0 42.9 7.2 2.6 12.5 15.5
女性 n=361
6.9 8.9 42.9 5.3 1.7 13.9 20.5
男性 n=300
5.7 18.0 42.7 9.7 3.7 10.7 9.7
G 全体的には
全体 n=664
7.4 22.3 38.0 3.3 1.5 12.3 15.2
女性 n=361
7.5 17.7 36.8 2.2 1.7 14.1 19.9
男性 n=300
7.3 27.7 39.7 4.7 1.3 9.7 9.7
0% 25% 50% 75% 100%
男性が優遇されている
どちらかといえば男性が優遇されている
平等である
どちらかといえば女性が優遇されている
女性が優遇されている
わからない
無回答

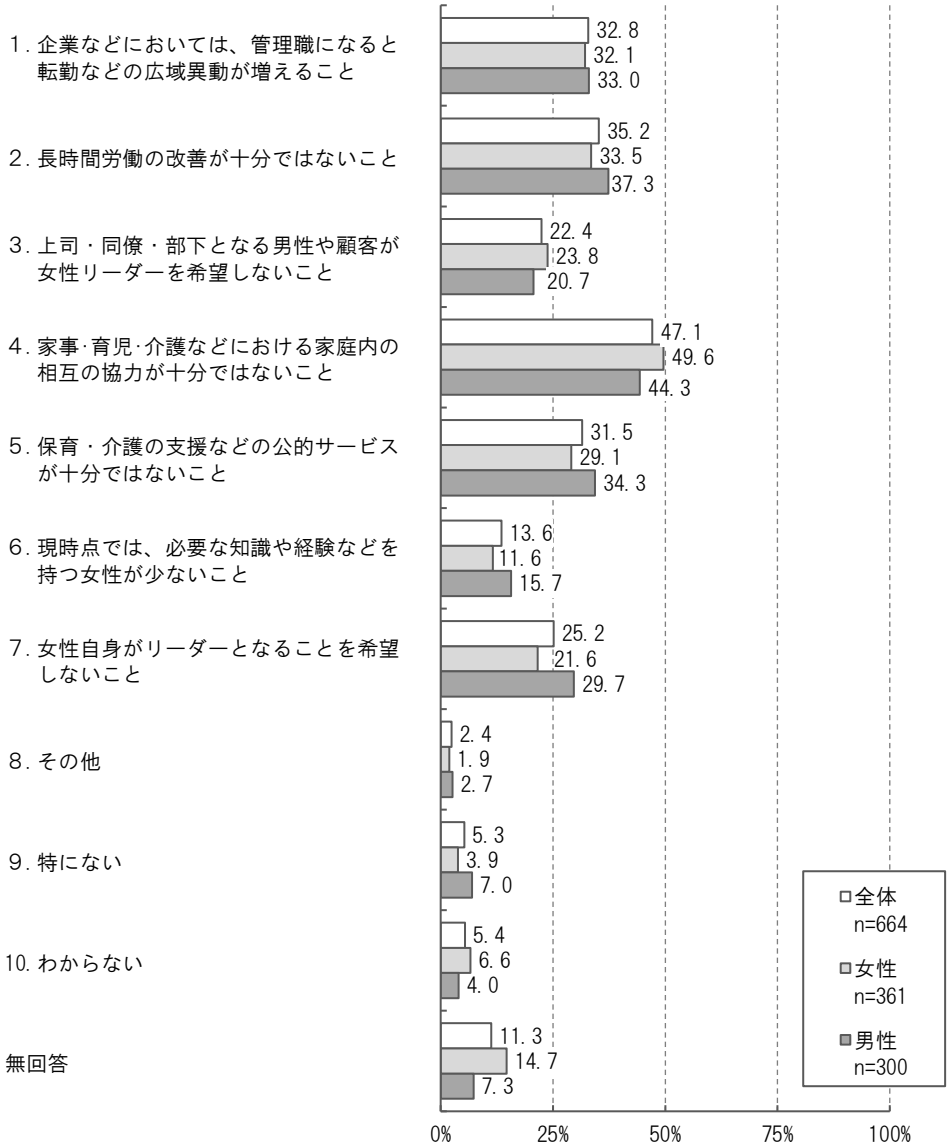
（２）職場における女性リーダーについて

問15　あなたは、職場で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか。（○はいくつでも）

女性リーダーを増やすときに障害となることは、「４.家事･育児･介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」が47.1%で最も高く、次いで「２.長時間労働の改善が十分ではないこと」(35.2%)、「１.企業などにおいては、管理職になると転勤などの広域異動が増えること」(32.8%）となっている。

また、「７.女性自身がリーダーとなることを希望しないこと」は、女性に比べ男性が8.1ポイント高くなっている。

«全体・性別»



（３）女性が職業を持つことについての考え方

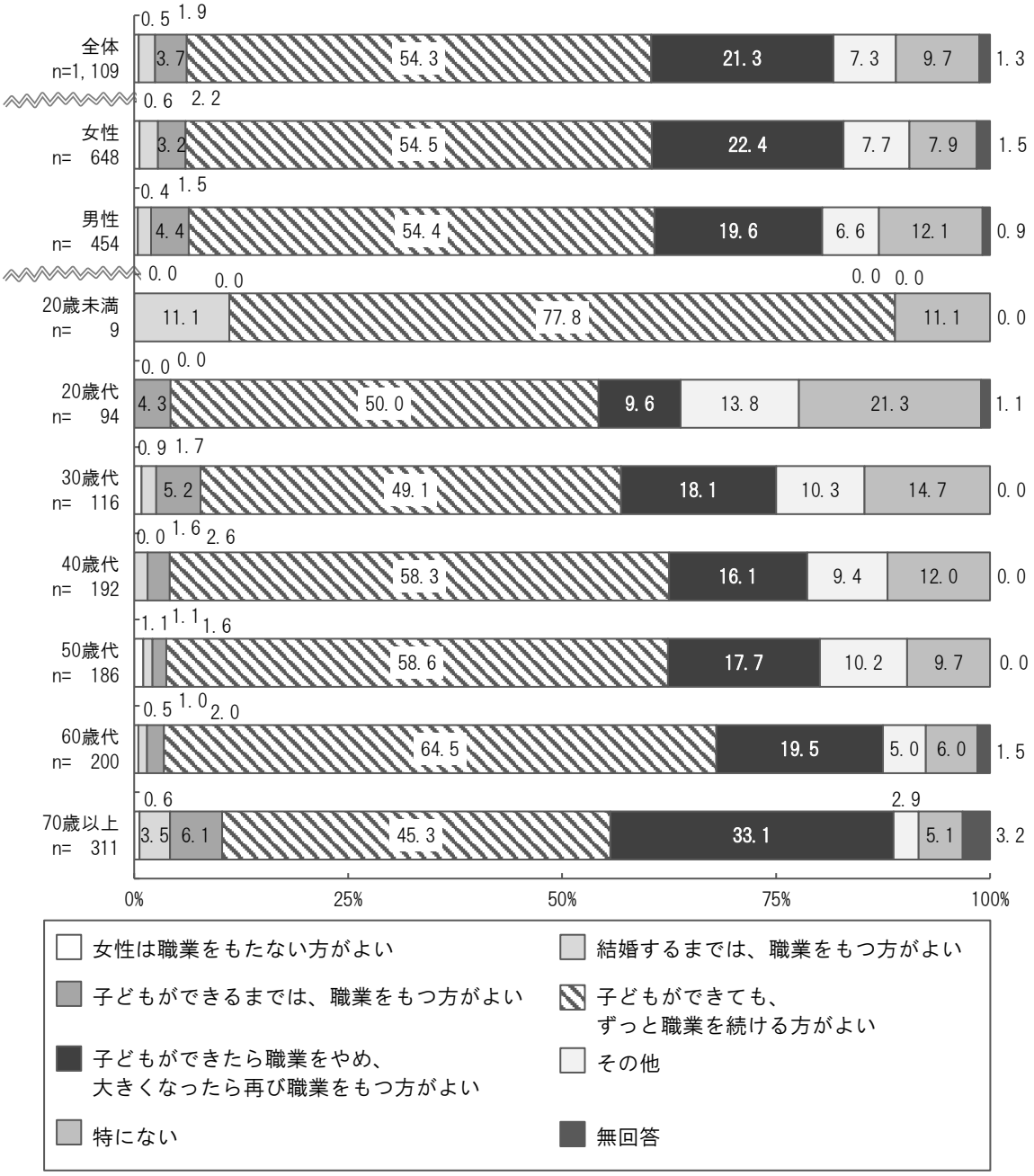
問16　あなたは、女性が職業をもつことについて、どうお考えですか。（○は１つ）

女性が職業をもつことについての考え方は、「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」（54.3%）が過半数を占め、性別でみても最も高くなっている。

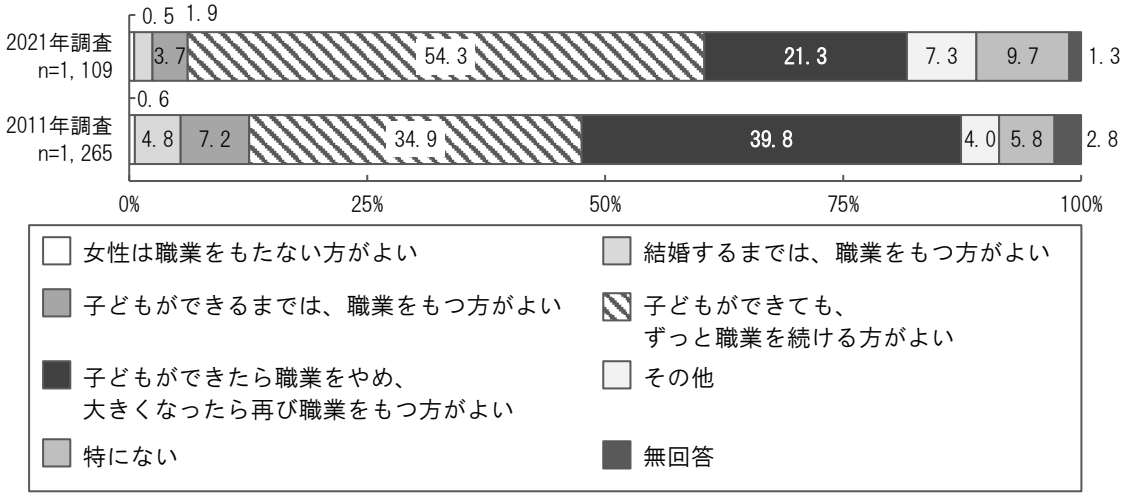
年代別では、「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」は30～60歳代で年代が上がるにつれ割合が高くなっている。70歳以上では、「子どもができたら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」と回答した割合が約３割を占め、他の年代に比べ高くなっている。

前回調査と比較すると、「子どもができても、ずっと職業を続ける方がよい」と回答した“中断なし就業”を支持する人は、19.4ポイント高くなっている。

«全体・性別・年代別»



«経年比較»



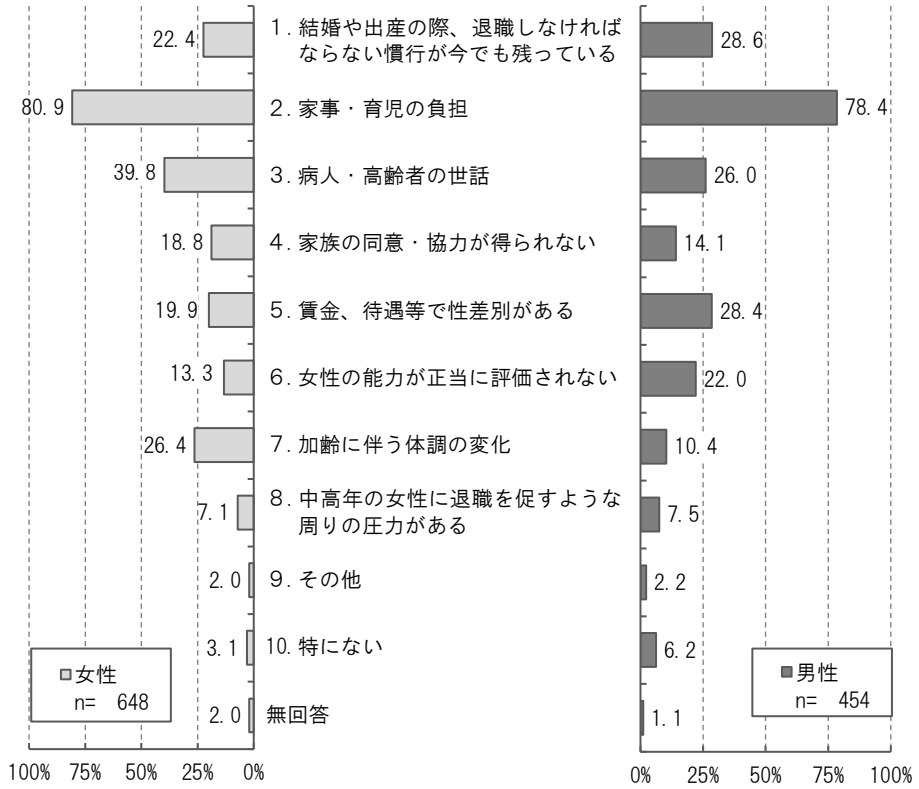
（４）女性が職業を続けるうえでの障害

問17　あなたは、女性が職業を続けていく上では、どんな障害があると思いますか。（○は３つまで）

女性が職業を続けていく上での障害は、男女ともに「２.家事・育児の負担」が最も高く、女性80.9%、男性78.4%となっている。

また、「７.加齢に伴う体調の変化」は女性（26.4%）が男性（10.4%）より16.0ポイント、「３.病人・高齢者の世話」は女性（39.8%）が男性（26.0%）より13.8ポイント高くなっている。

«性別»



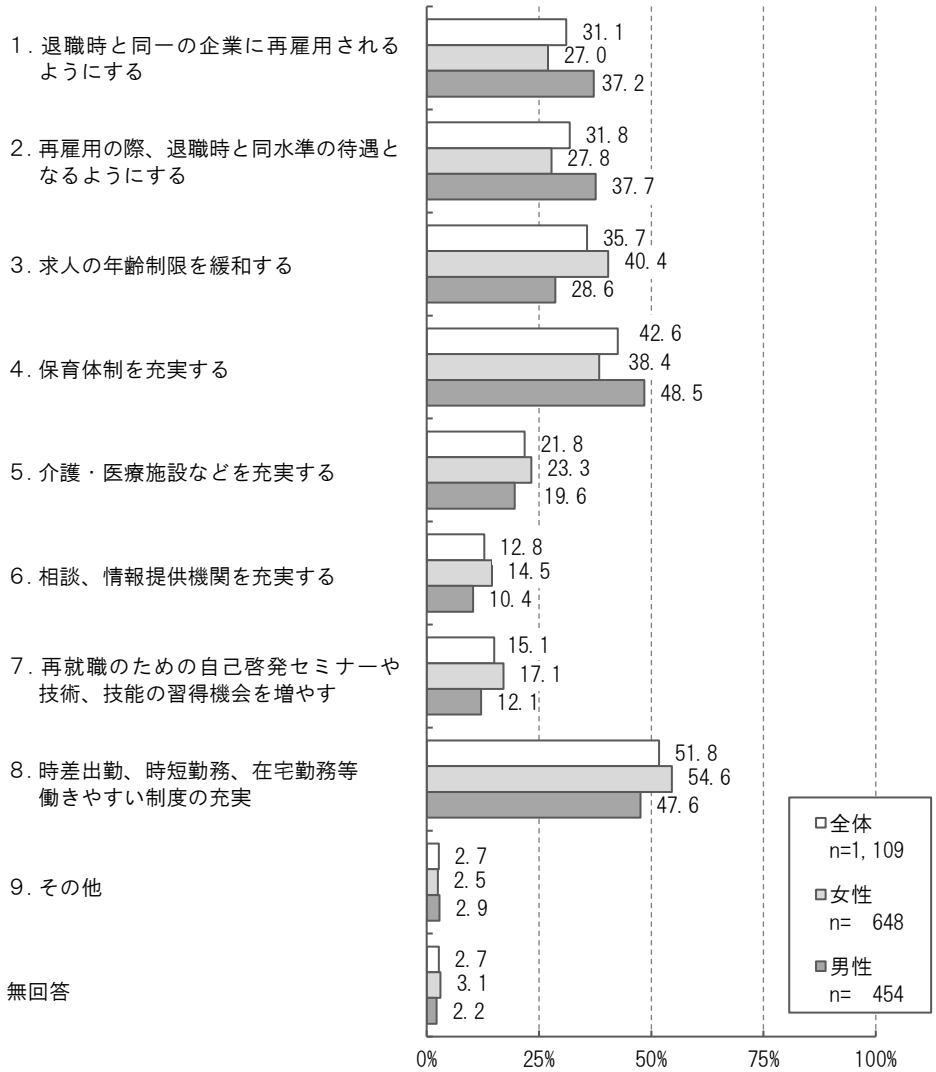
（５）女性の再就職に必要なこと

問18　いったん離職した女性が再就職や起業にチャレンジするためには、どのようなことが必要だと思いますか。（○は３つまで）

いったん離職した女性が再就職や起業にチャレンジするために必要なことは、「８.時差出勤、時短勤務、在宅勤務等働きやすい制度の充実」が51.8%で最も高く、次いで「４.保育体制を充実する」（42.6%）、「３.求人の年齢制限を緩和する」（35.7%）となっている。

性別にみると、「３.求人の年齢制限を緩和する」は、男性に比べ女性が11.8ポイント高くなっている。また、「１.退職時と同一の企業に再雇用されるようにする」「４.保育体制を充実する」「２.再雇用の際、退職時と同水準の待遇となるようにする」は、女性に比べ男性が10ポイント前後高くなっている。

«全体・性別»

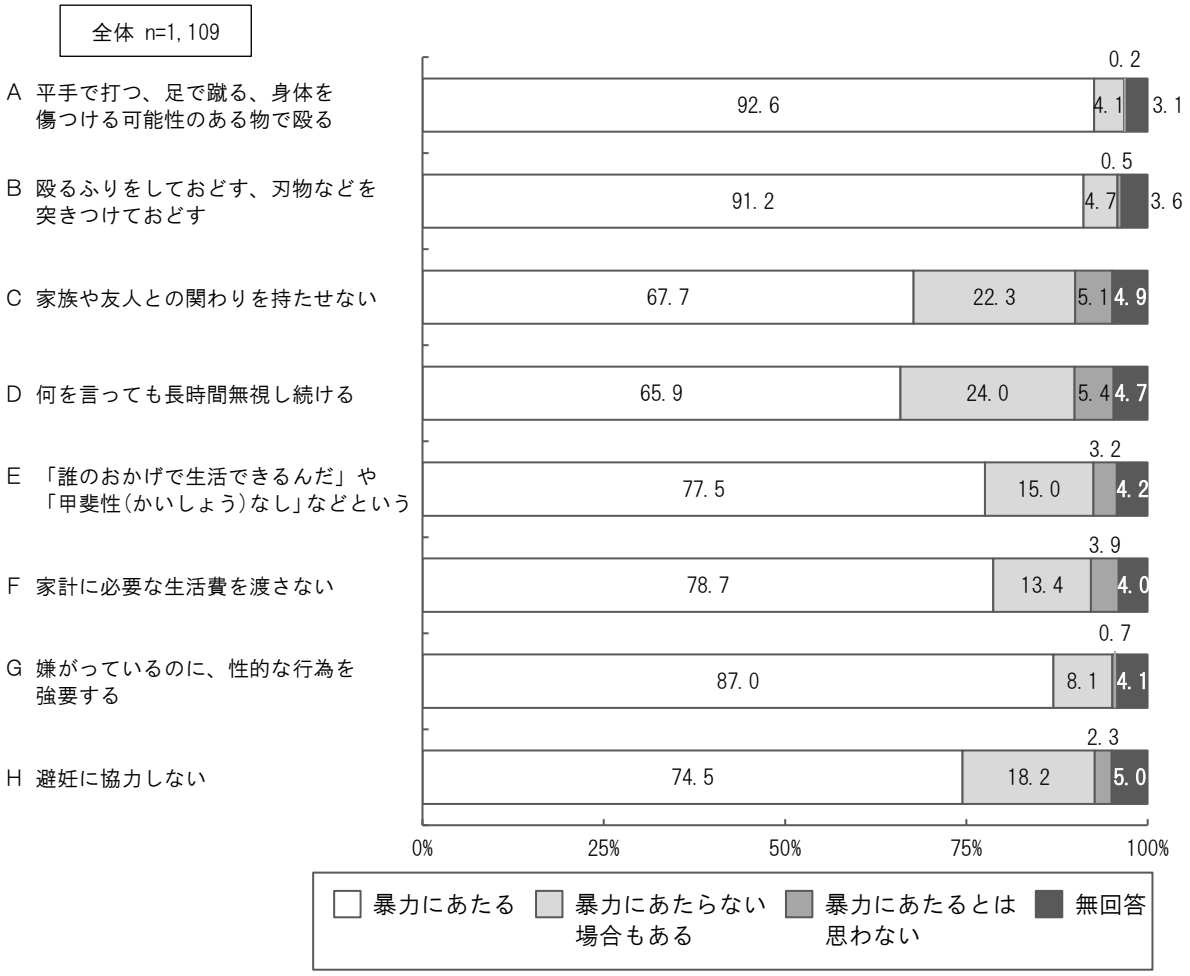


6　ドメスティック・バイオレンス（DV）等について

（１）DV に該当する暴力行為の認識

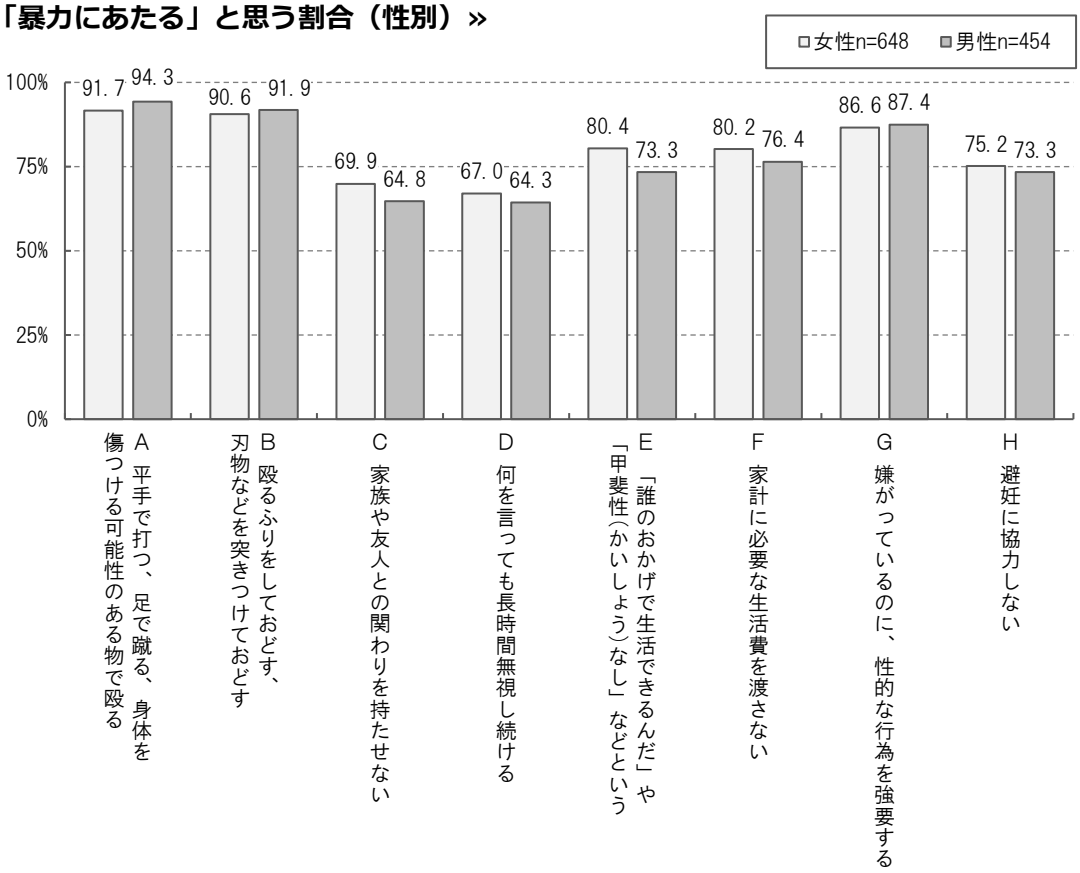
問19　あなたは、次のA～Hのようなことが配偶者・パートナーや交際相手など、親密な関係にある者の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。
（A～Hのそれぞれに○は１つ）

ＤＶに該当する行為として、『Ａ　平手で打つ、足で蹴る、身体を傷つける可能性のある物で殴る』『Ｂ　殴るふりをしておどす、刃物などを突きつけておどす』は９割以上が「暴力にあたる」と認識している。



性別にみると、『Ａ　平手で打つ、足で蹴る、身体を傷つける可能性のある物で殴る』『Ｂ　殴るふりをしておどす、刃物などを突きつけておどす』は男女とも９割以上が「暴力にあたる」と認識しているものの、心理的攻撃や経済的圧迫などの行為が「暴力にあたる」と認識している男性は、女性に比べて低い傾向にある。

«「暴力にあたる」と思う割合（性別）»



（２）配偶者からの暴力行為について

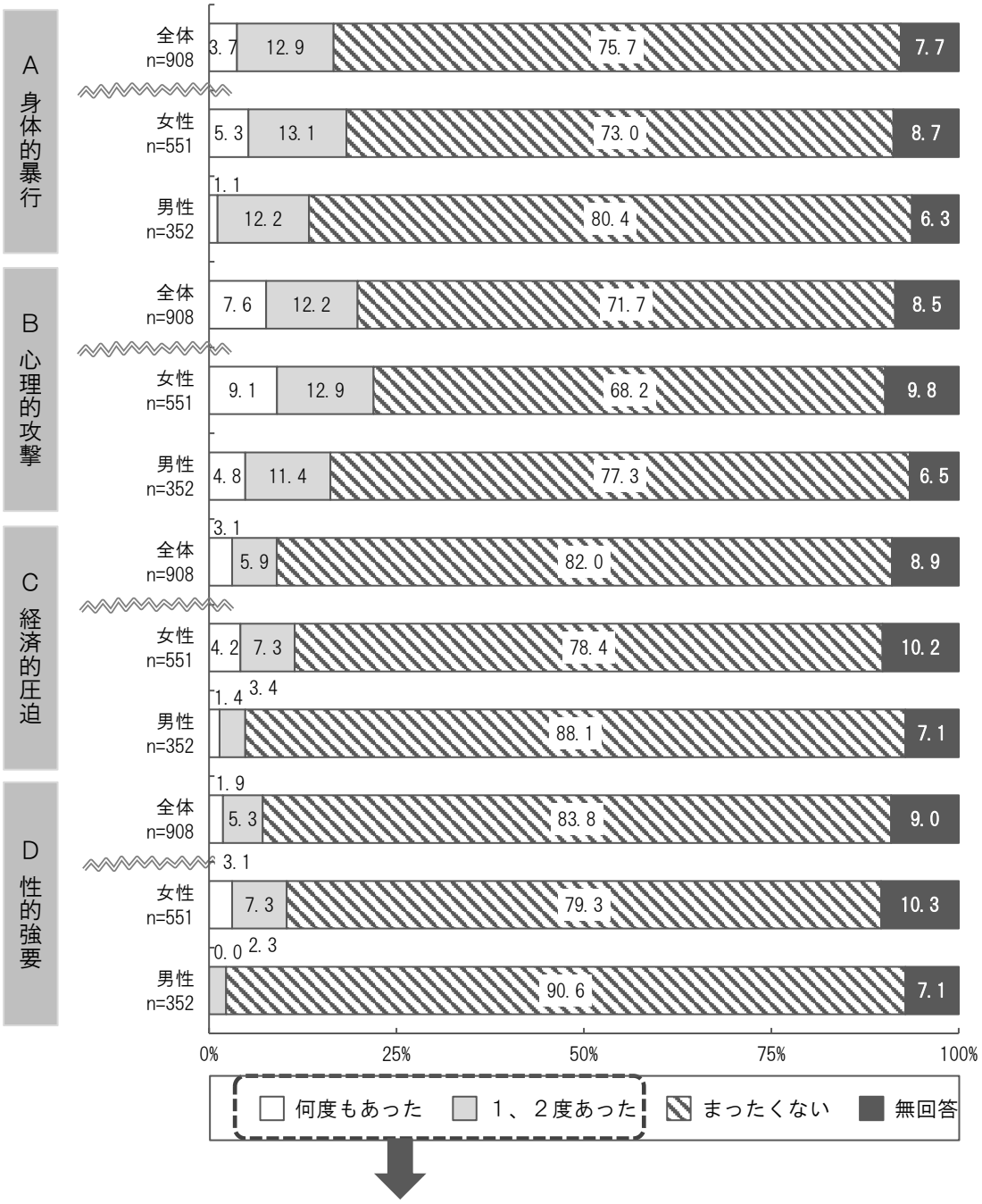
◆問3で「１．結婚している（配偶者・パートナーがいる）」～「３．結婚していたが死別した」と回答した方にお聞きします。

問20　あなたは、これまでに配偶者から次のＡ～Ｄのような行為をされたことがありますか。（Ａ～Ｄのそれぞれに○は１つ）

これまでに配偶者による暴力行為が“あった”（「何度もあった」＋「１、２度あった」）と回答した割合は、『Ｂ　心理的攻撃』が19.8%で最も高く、次いで『Ａ　身体的暴行』（16.6%）、『Ｃ　経済的圧迫』（9.0%）、『Ｄ　性的強要』（7.2%）となっている。

性別にみると、いずれの行為も男性に比べ女性の割合が高く、『Ｄ　性的強要』は男性の約4.5倍、『Ｃ　経済的圧迫』は約2.4倍となっている。

«全体・性別»

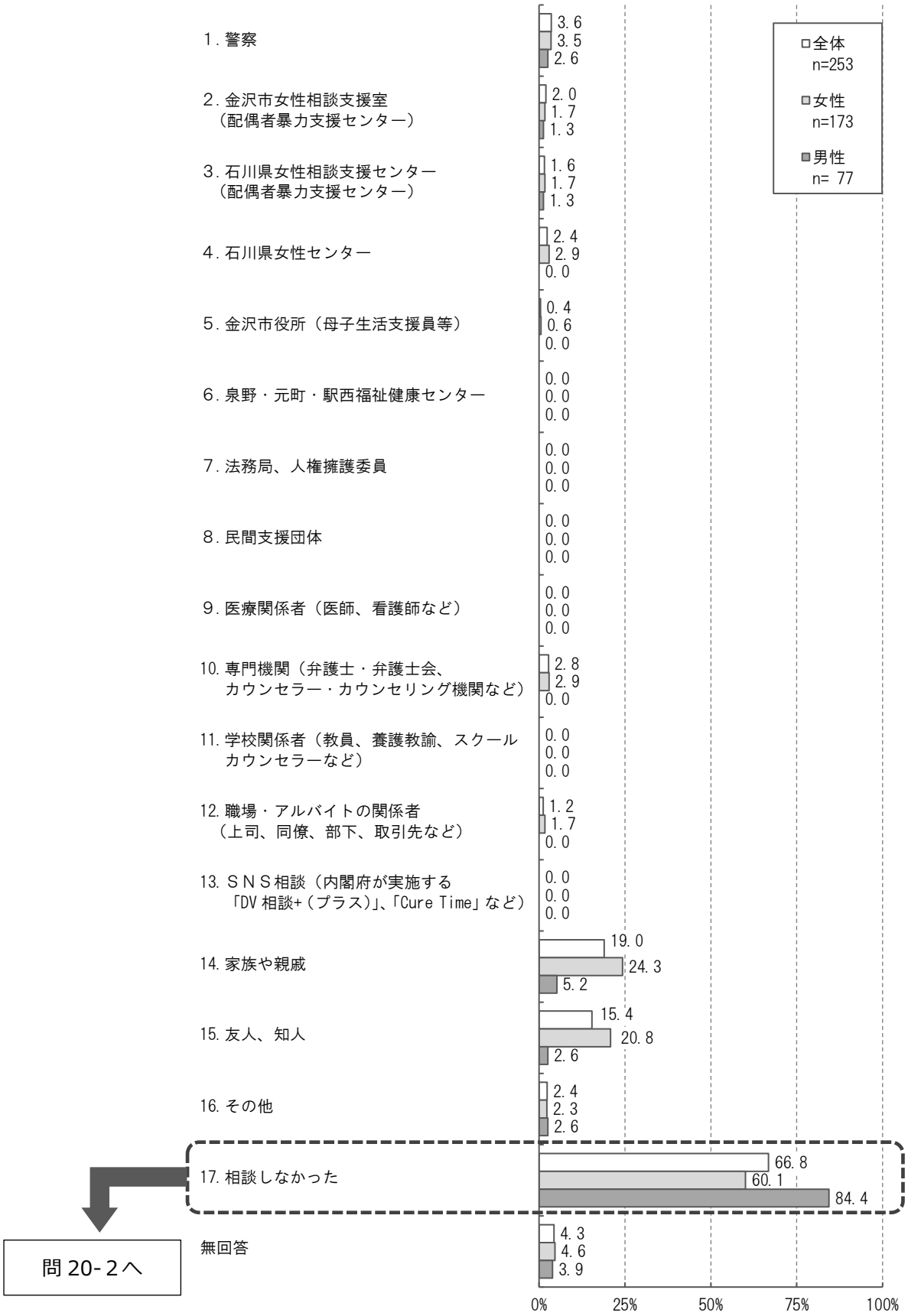


問20のＡ～Ｄのいずれかで、「１．何度もあった」「２．１、２度あった」と回答した方にお聞きします。

問20-１　あなたが受けた問20の行為について誰かに相談しましたか。（○はいくつでも）

配偶者などによる暴力行為について「17.相談しなかった」が66.8%で最も高くなっている。次いで「14.家族や親戚」（19.0%）、「15.友人、知人」（15.4%）が上位となっているものの、「１.警察」などの公的な相談機関を利用する回答者は、ごくわずかという状況である。

«全体・性別»


全体 n=253
女性 n=173
男性 n= 77
1. 警察 3.6 3.5 2.6
2. 金沢市女性相談支援室（配偶者暴力支援センター） 2.0 1.7 1.3
3. 石川県女性相談支援センター（配偶者暴力支援センター） 1.6 1.7 1.3
4. 石川県女性センター 2.4 2.9 0.0
5. 金沢市役所（母子生活支援員等） 0.4 0.6 0.0
6. 泉野・元町・駅西福祉健康センター 0.0 0.0 0.0
7. 法務局、人権擁護委員 0.0 0.0 0.0
8. 民間支援団体 0.0 0.0 0.0
9. 医療関係者（医師、看護師など） 0.0 0.0 0.0
10. 専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関など） 2.8 2.9 0.0
11. 学校関係者（教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど） 0.0 0.0 0.0
12. 職場・アルバイトの関係者（上司、同僚、部下、取引先など） 1.2 1.7 0.0
13. ＳＮＳ相談（内閣府が実施する「DV 相談+（プラス）」、「Cure Time」など） 0.0 0.0 0.0
14. 家族や親戚 19.0 24.3 5.2
15. 友人、知人 15.4 20.8 2.6
16. その他 2.4 2.3 2.6
17. 相談しなかった 66.8 60.1 84.4
無回答 4.3 4.6 3.9
0% 25% 50% 75% 100%
問 20-２へ

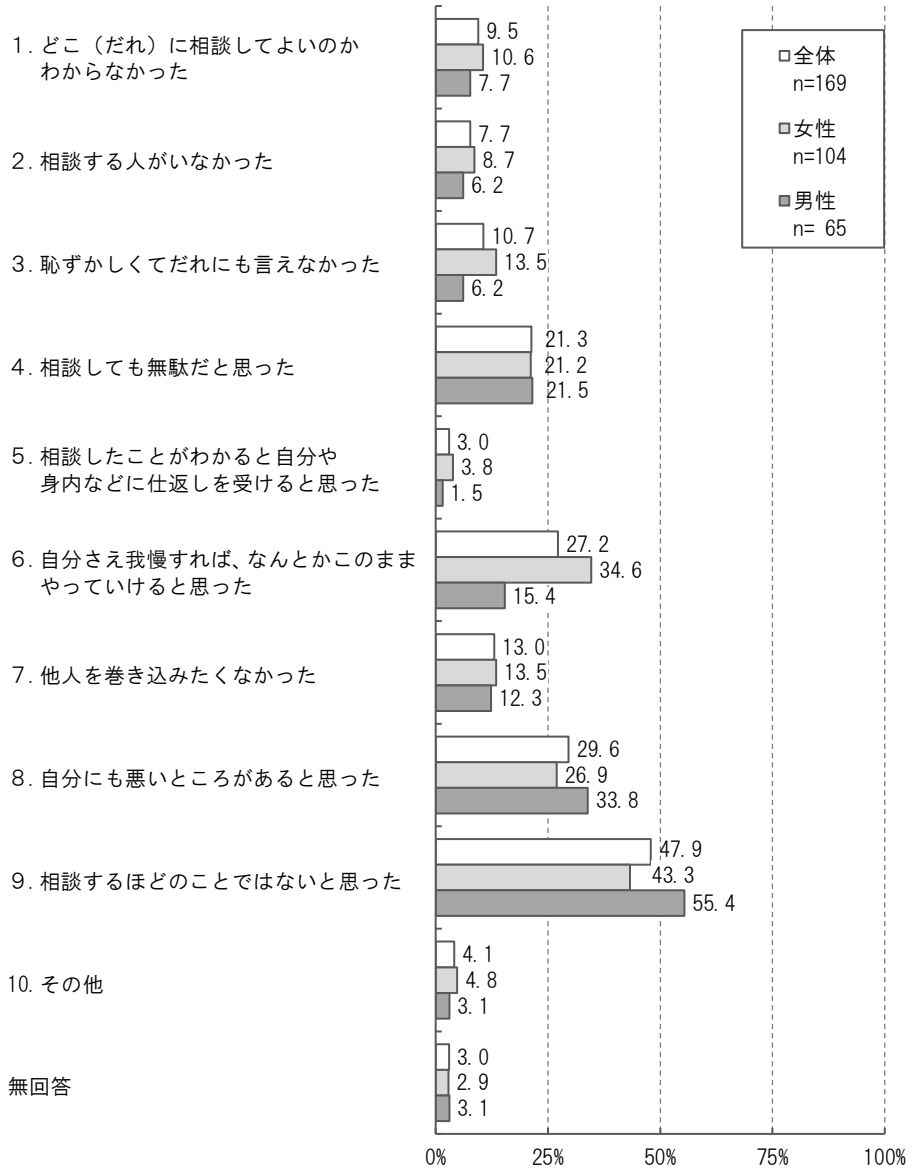
問20-１で「17．相談しなかった」と回答した方にお聞きします。

問20-２　どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（○はいくつでも）

配偶者などによる暴力行為について「相談しなかった」理由は、「９.相談するほどのことではないと思った」が47.9%で最も高く、次いで「８.自分にも悪いところがあると思った」（29.6%）、「６.自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った」（27.2%）となっている。

性別にみると、女性は「６.自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思った」「３.恥ずかしくてだれにも言えなかった」「５.相談したことがわかると自分や身内などに仕返しを受けると思った」が男性の２倍以上、男性は「９.相談するほどのことではないと思った」が女性より12.1ポイント高くなっている。

«全体・性別»

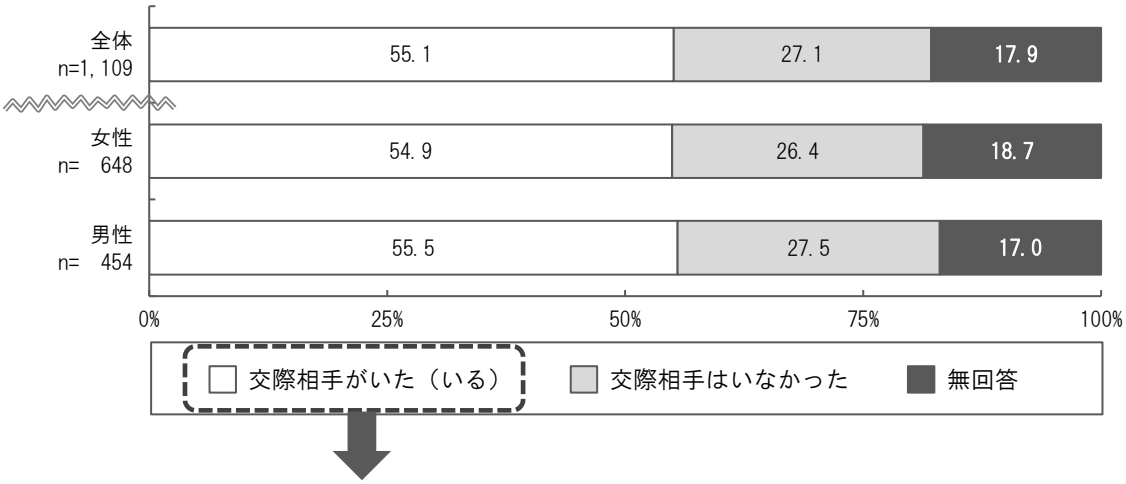


（３）交際相手からの暴力行為について

問21　あなたは、これまでに交際相手がいましたか。（○は１つ）

これまでに「交際相手がいた（いる）」は55.1%となっている。
性別にみても、同程度となっている。

«全体・性別»

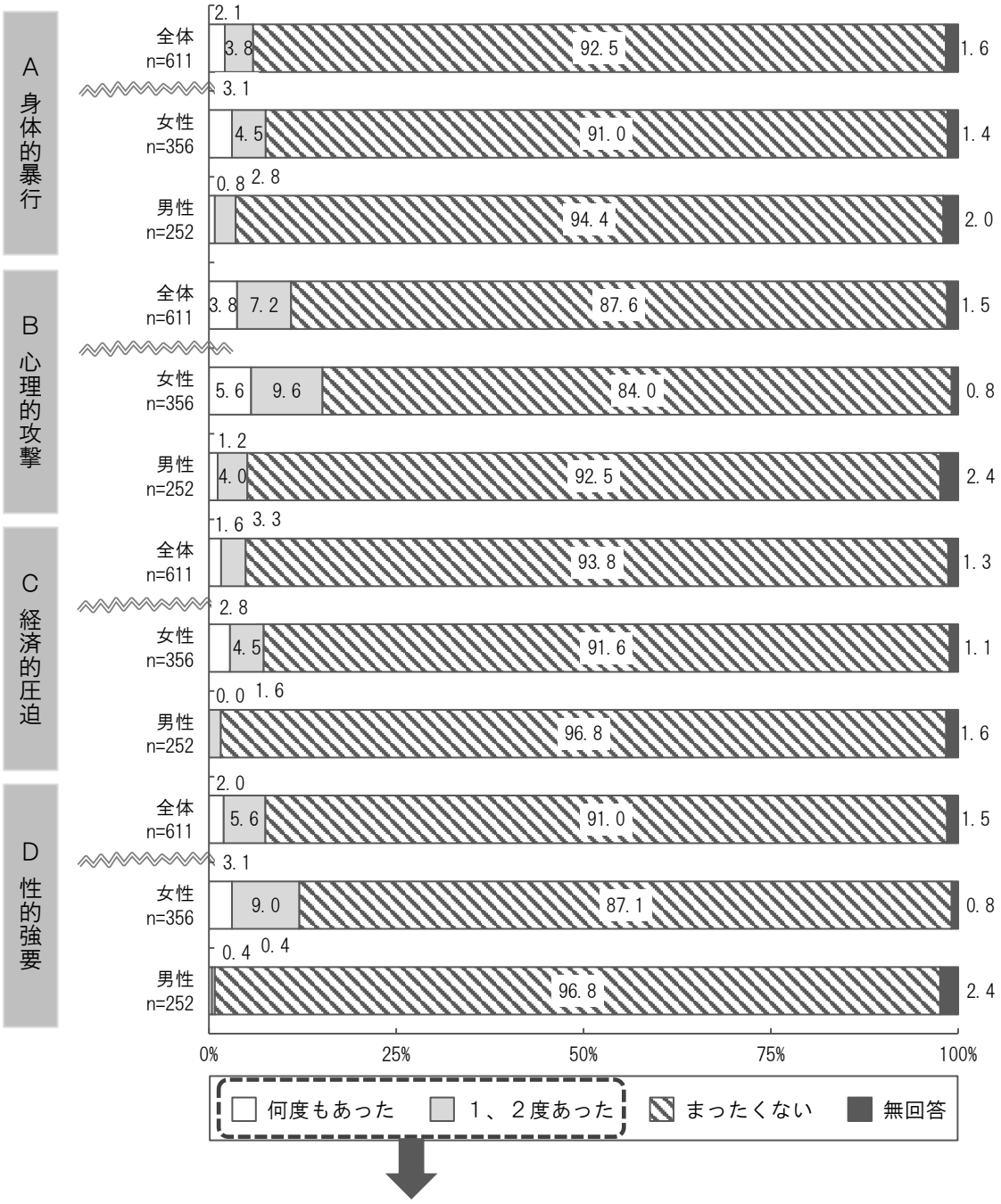


問21で、「１．交際相手がいた（いる）」と回答した方にお聞きします。

問21-１　あなたは、これまでに交際相手から次のＡ～Ｄのような行為をされたことがありますか。（Ａ～Ｄのそれぞれに○は１つ）

これまでに交際相手による暴力行為が“あった”（「何度もあった」＋「１、２度あった」）と回答した割合は、『Ｂ　心理的攻撃』が11.0%で最も高く、次いで『Ｄ　性的強要』（7.6%）、『Ａ　身体的暴行』（5.9%）、『Ｃ　経済的圧迫』（4.9%）となっている。
性別にみると、いずれの行為も男性に比べ女性の割合が高くなっている。

«全体・性別»



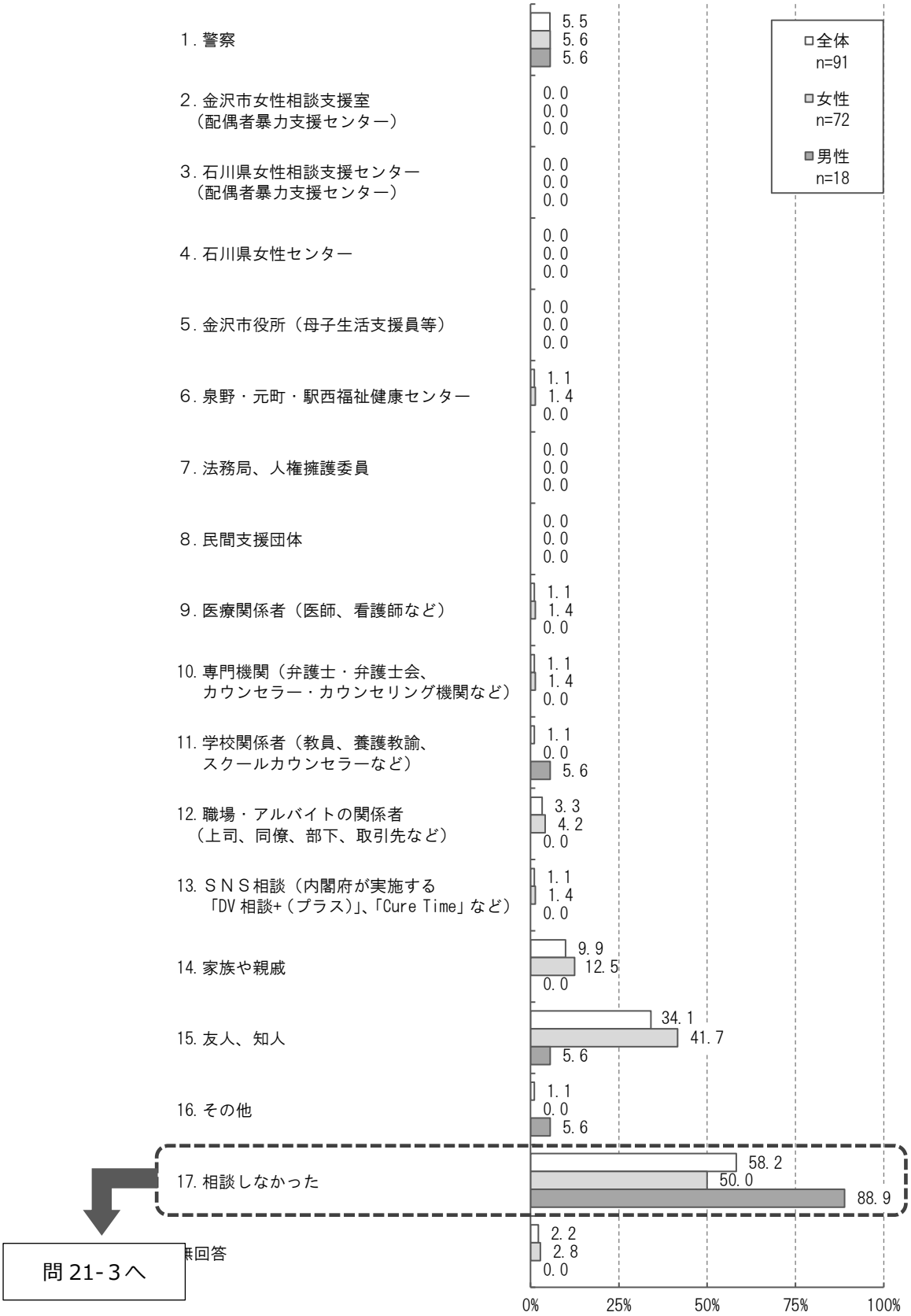
問21-１のＡ～Ｄのいずれかで、「１．何度もあった」「２．１、２度あった」と回答した方にお聞きします。

問21-２　あなたが受けた問21-１の行為についてどこ（だれ）に相談しましたか。
（○はいくつでも）

交際相手による暴力行為について「17.相談しなかった」が58.2%で最も高く、次いで「15.友人、知人」（34.1%）、次いで「14.家族や親戚」（9.9%）となっている。

性別にみると、男性は「17.相談しなかった」が88.9%を占める一方、女性は50.0%に留まり、次いで「15.友人、知人」（41.7%）、「14.家族や親戚」（12.5%）となっている。

«全体・性別»


1. 警察
5.5
5.6
5.6
2. 金沢市女性相談支援室（配偶者暴力支援センター）
0.0
0.0
0.0
3. 石川県女性相談支援センター（配偶者暴力支援センター）
0.0
0.0
0.0
4. 石川県女性センター
0.0
0.0
0.0
5. 金沢市役所（母子生活支援員等）
0.0
0.0
0.0
6. 泉野・元町・駅西福祉健康センター
1.1
1.4
0.0
7. 法務局、人権擁護委員
0.0
0.0
0.0
8. 民間支援団体
0.0
0.0
0.0
9. 医療関係者（医師、看護師など）
1.1
1.4
0.0
10. 専門機関（弁護士・弁護士会、カウンセラー・カウンセリング機関など）
1.1
1.4
0.0
11. 学校関係者（教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど）
1.1
0.0
5.6
12. 職場・アルバイトの関係者（上司、同僚、部下、取引先など）
3.3
4.2
0.0
13. ＳＮＳ相談（内閣府が実施する「DV 相談+（プラス）」、「Cure Time」など）
1.1
1.4
0.0
14. 家族や親戚
9.9
12.5
0.0
15. 友人、知人
34.1
41.7
5.6
16. その他
1.1
0.0
5.6
17. 相談しなかった
58.2
50.0
88.9
無回答
2.2
2.8
0.0
0%
25%
50%
75%
100%
全体 n=91
女性 n=72
男性 n=18
問 21-3へ

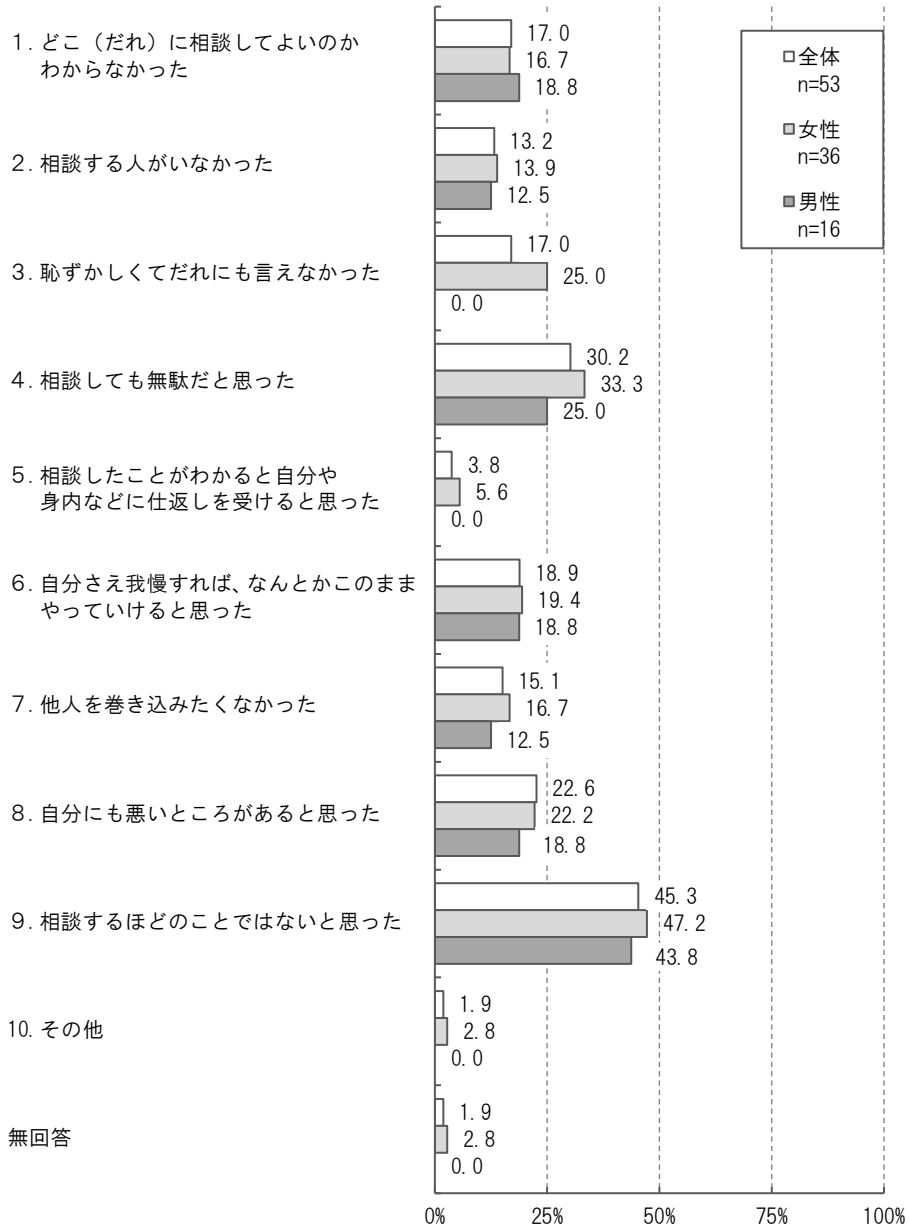
問21-２で「17．相談しなかった」と回答した方にお聞きします。

問21-３　どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（○はいくつでも）

交際相手による暴力行為について「相談しなかった」理由は、「９.相談するほどのことではないと思った」が45.3%で最も高く、次いで「４.相談しても無駄だと思った」（30.2%）、「８.自分にも悪いところがあると思った」（22.6%）となっている。

性別にみると、女性は「３.恥ずかしくてだれにも言えなかった」が25.0%「５.相談したことがわかると自分や身内などに仕返しを受けると思った」が5.6%となっているのに対し、男性は0%となっている。

«全体・性別»



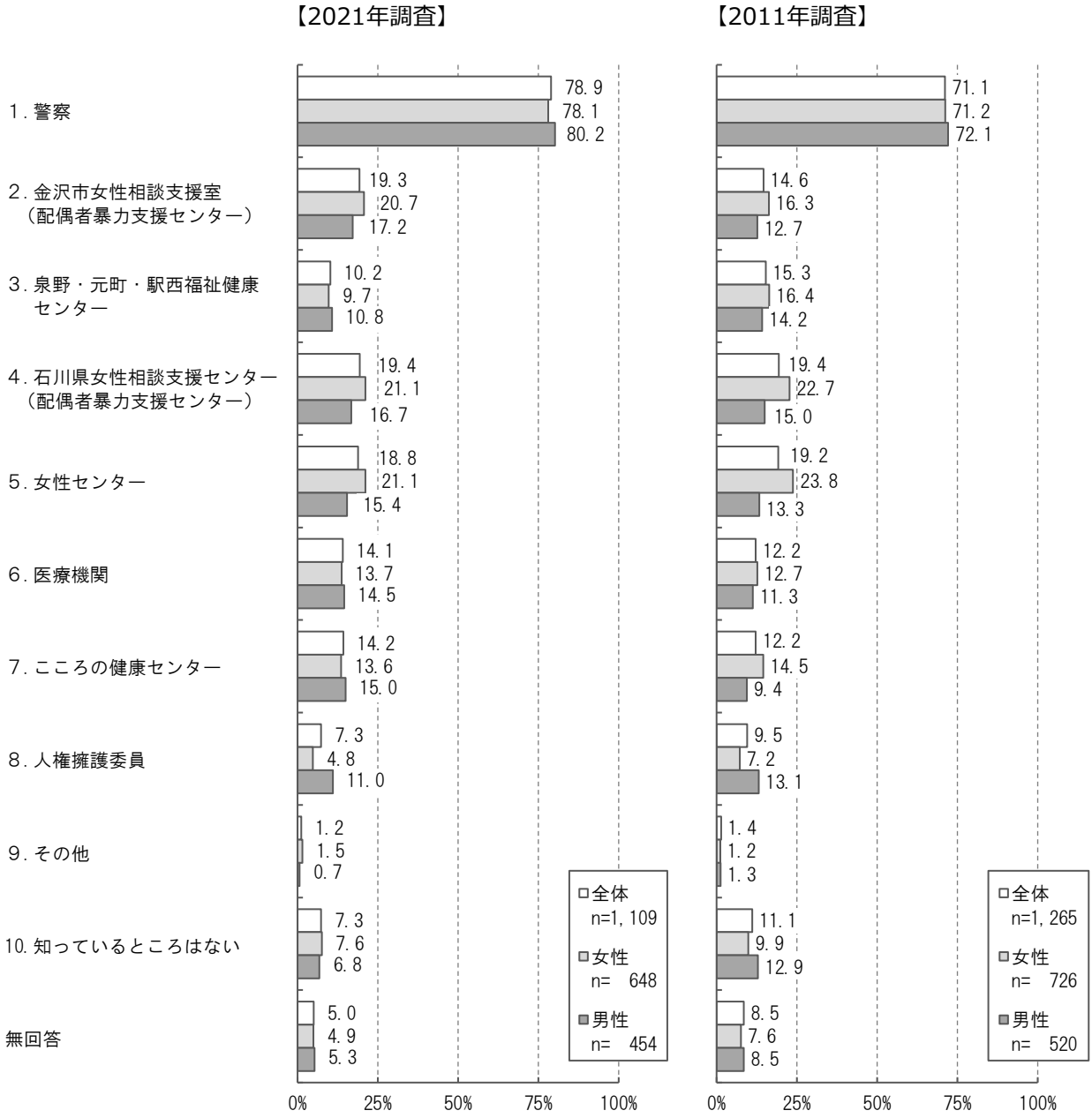
（４） ＤＶを受けた時の相談機関の認知度

問22　配偶者や交際相手など、親密な関係にある人から暴力を受けたときの相談機関として、あなたが知っているものはどれですか。（○はいくつでも）

ＤＶを受けたときの相談機関として知っているものは、「１.警察」（78.9%）が約８割を占め最も高く、「４.石川県女性相談支援センター（配偶者暴力支援センター）」「２.金沢市女性相談支援室（配偶者暴力支援センター）」「５.女性センター」が２割弱となっている。

前回調査と比較すると、「10.知っているところはない」がやや減少し、「１.警察」「２.金沢市女性相談支援室（配偶者暴力支援センター）」が高くなっている。

«全体・性別（経年比較）»

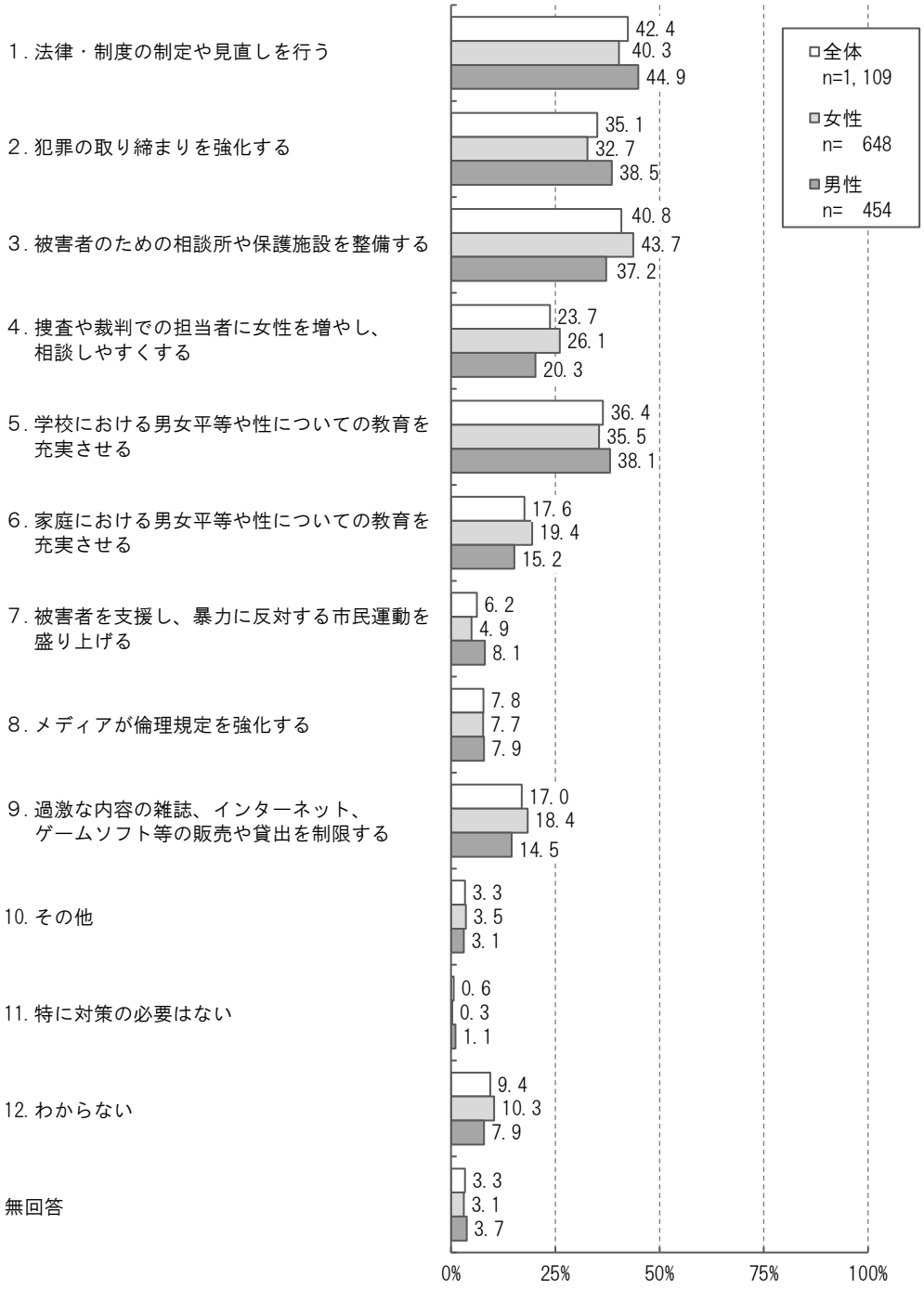


（５）女性に対する暴力根絶のために必要なこと

問23　性犯罪、売買春（いわゆる「援助交際」を含む）、配偶者等の暴力、セクシュアル・ハラスメント等、女性に対する暴力をなくすためにはどうしたらよいと思いますか。（○は３つまで）

女性に対する暴力をなくすために必要なことは、「１.法律・制度の制定や見直しを行う」（42.4%）、「３.被害者のための相談所や保護施設を整備する」（40.8%）、「５.学校における男女平等や性についての教育を充実させる」（36.4%）、「２.犯罪の取り締まりを強化する」（35.1%）が上位となっている。

«全体・性別»



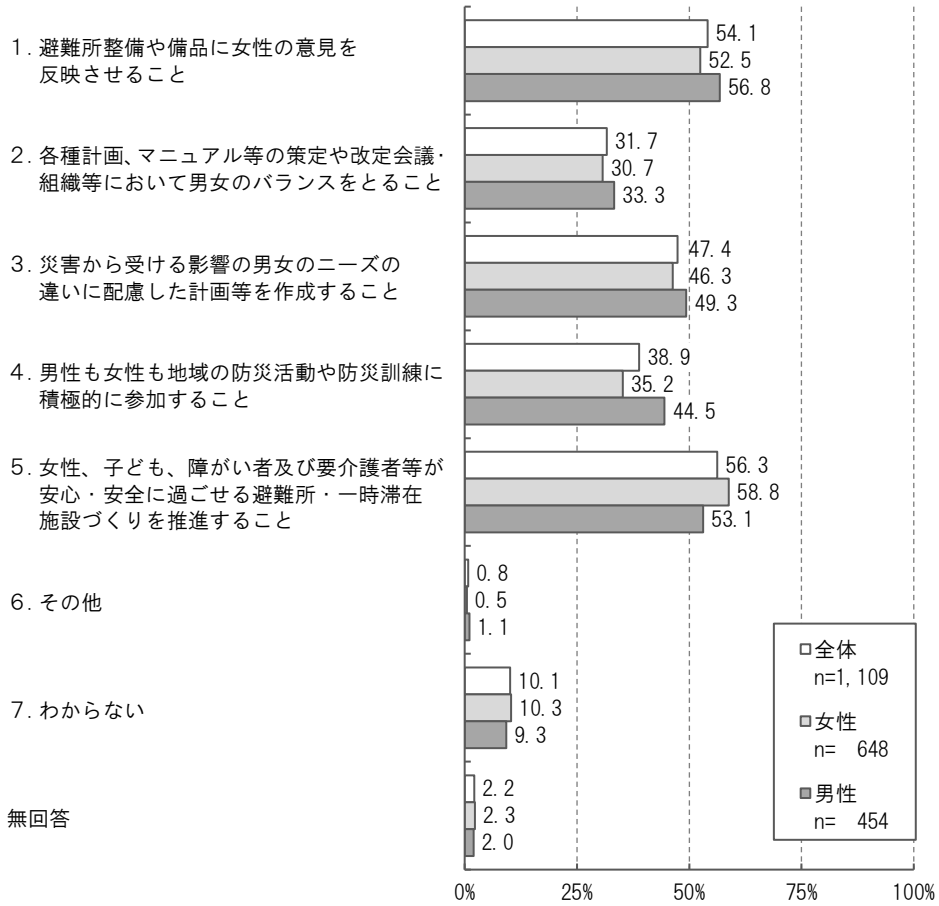
7　防災活動について

問24　あなたは、防災分野における男女共同参画の推進のために、どのようなことが必要だと思いますか。（○はいくつでも）

防災分野における男女共同参画の推進のために必要なことは、「５.女性、子ども、障がい者及び要介護者等が安心・安全に過ごせる避難所・一時滞在施設づくりを推進すること」（56.3%）、「１.避難所整備や備品に女性の意見を反映させること」（54.1%）、「３.災害から受ける影響の男女のニーズの違いに配慮した計画等を作成すること」（47.4%）が上位となっている。

性別にみると、男性は「４.男性も女性も地域の防災活動や防災訓練に積極的に参加すること」が女性に比べて9.3ポイント高くなっている。

«全体・性別»



8　男女共同参画の推進について

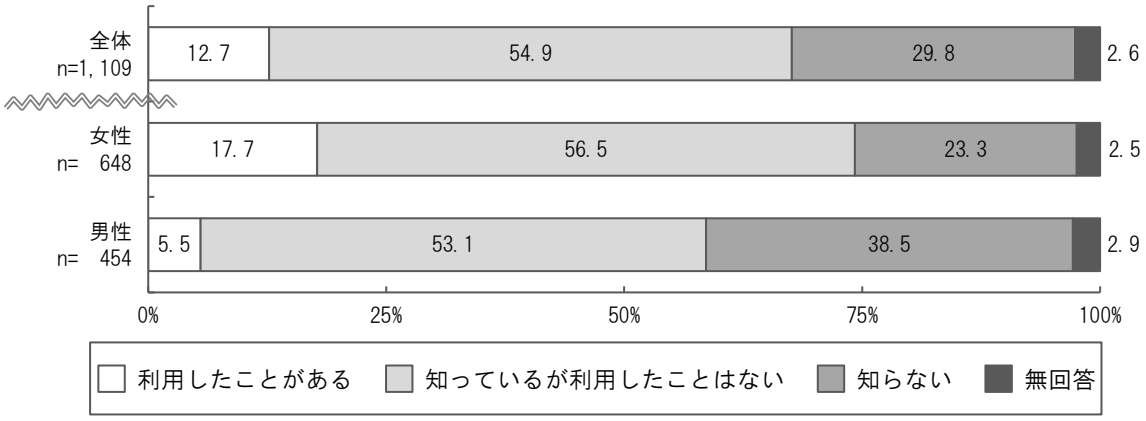
（１）金沢市女性センターの周知度等

問25　あなたは「金沢市女性センター」を知っていますか。また、利用したことがありますか。（○は１つ）

『金沢市女性センター』を“知っている”（「利用したことがある」＋「知っているが利用したことはない」）方は67.6%で、「知らない」は29.8%となっている。

性別にみると、女性は「利用したことがある」（17.7%）と回答した割合が男性（5.5%）より12.2ポイント高くなっている。

«全体・性別»



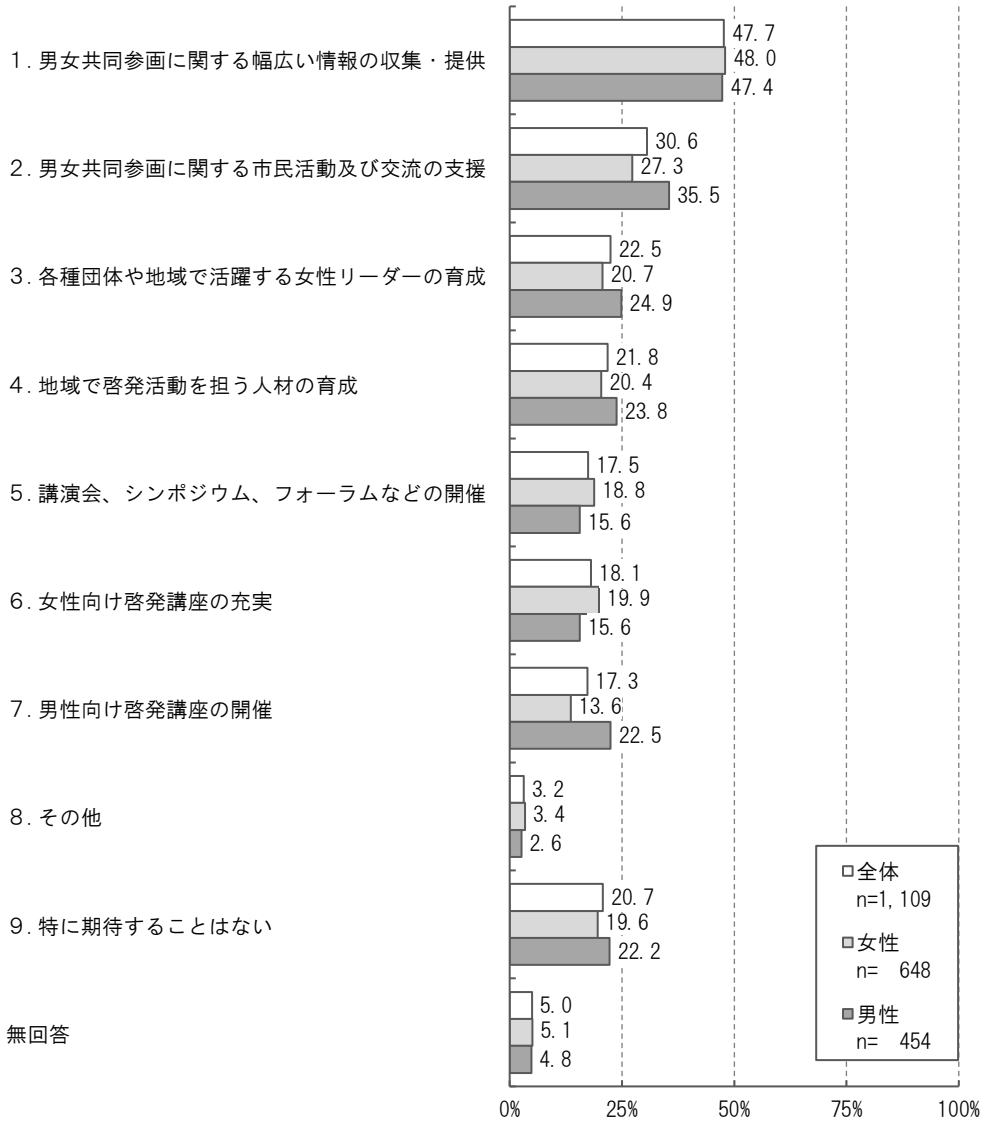
（２）金沢市女性センターに期待すること

問26　男女共同参画推進拠点として、金沢市女性センターにあなたが期待することは何ですか。（○はいくつでも）

男女共同参画推進拠点として、金沢市女性センターに期待することは、「１.男女共同参画に関する幅広い情報の収集・提供」が47.7%で最も高く、次いで「２.男女共同参画に関する市民活動及び交流の支援」（30.6%）、「３.各種団体や地域で活躍する女性リーダーの育成」（22.5%）、「４.地域で啓発活動を担う人材の育成」（21.8%）となっている。

一方、「９.特に期待することはない」が20.7%となっている。

«全体・性別»

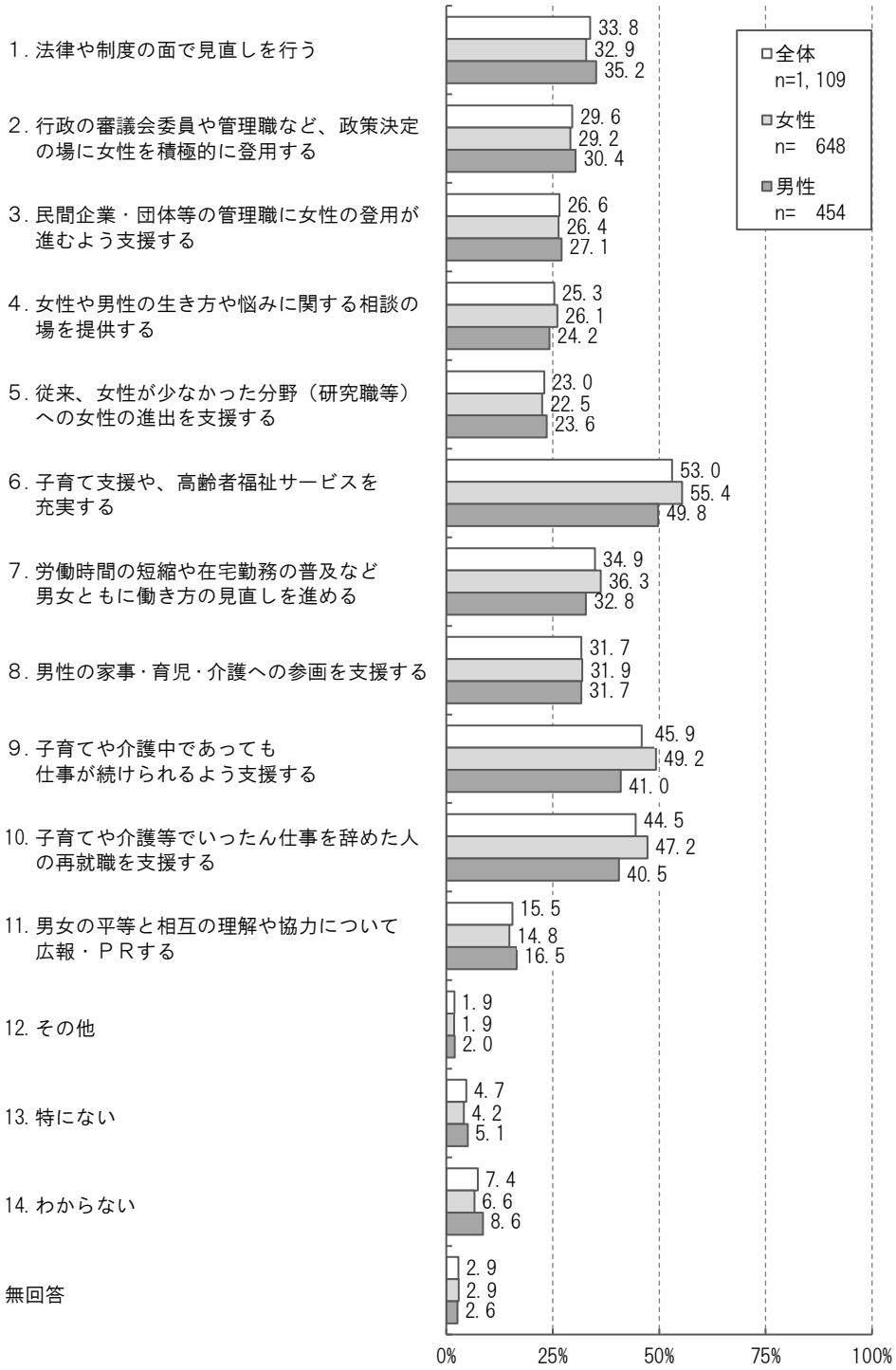


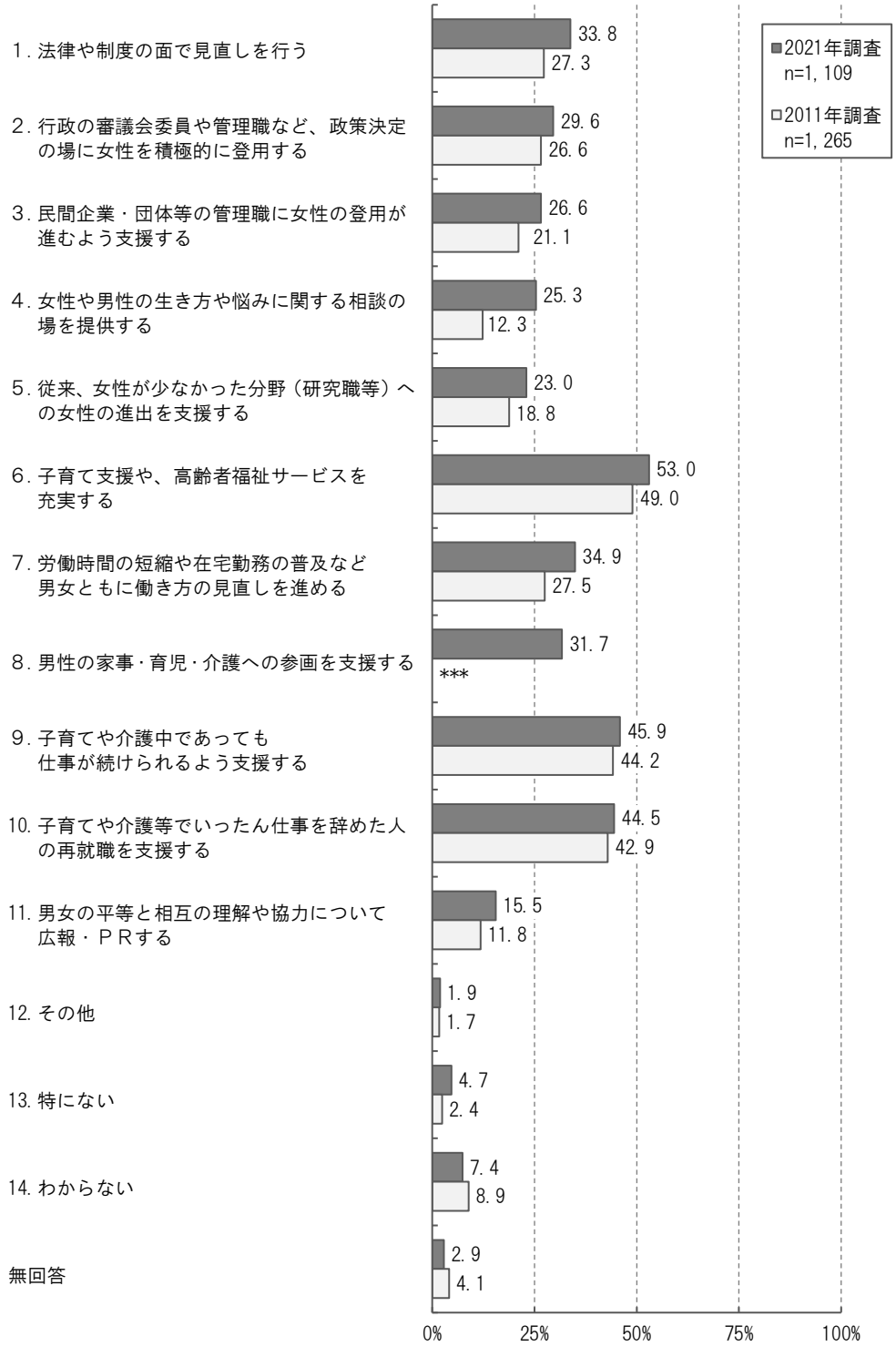
（３）男女共同参画社会の実現に向けて行政に望むこと

問27　男女共同参画社会の実現のために、行政に対して特に望むことはどのようなことですか。（○はいくつでも）

男女共同参画社会の実現のために、行政に対して特に望むことは、「６.子育て支援や、高齢者福祉サービスを充実する」(53.0%)、「９.子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」（45.9%）、「10.子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」（44.5%）が上位となっており、いずれも男性より女性の割合が高くなっている。

«全体・性別»



前回調査と比較すると、「６.子育て支援や、高齢者福祉サービスを充実する」「９.子育てや介護中であっても仕事が続けられるよう支援する」「10.子育てや介護等でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」の上位に変動はなく、すべての項目で増加がみられる。

«経年比較»